

VOCALIZE no.96

JOURNAL OF AKC-VOCALIZE

1967. 8.13 (Sun.)

ゆりかご

平井康三郎

ゆりかごにゆれて

静かにねむれ

風はそよそよと

白きかいな

吹くよ

ゆりかごにゆれて

静かにねむれ

風は夢をさまし

黒き瞳に

吹くよ

ニュース・選挙結果……………
 コーラス・つどい報告記……………
 AKC20年史(8期)……………
 演奏会だより・みんなのうた……………
 プロフィール……………

15 14 7 3
 16 15 13 6 2

八月以降のおもな音楽会 名古屋

◇クラシック ◆ポピュラー □映画

◇同志社大学男声合唱団「リーダー・クラレンツ・コー
 ル」8月17日 1.30・6.00PM 中電ホール

◆原トシハルとB and B・森山良子公演

18日 6.30PM 市公会堂

◆大橋節夫とハニーアイランダーズ公演

22日 6.30PM 文化講堂

□ロシア歌劇映画「ボリス・ゴドノフ」(カラー)

25日 6.30PM 中日劇場

◇ザ・ブラザーズフォア公演 9月6日 6.30PM
 文化講堂

◇服部豊子・安川加寿子・ヴァイオリンとピアノのた
 めの名曲コンサート 25日 6.30PM 中日劇場

◇アマデウス弦楽四重奏団公演

27日 6.30PM 中日劇場

◆カーメン・キャバレロとその楽団公演

30日 6.00PM 中日劇場

◆ザ・スパイダース公演

10月3日 6.00PM 中日劇場

◆サム・ザ・メン・テイラー公演

3日 6.30PM 文化講堂

◆ブレンダ・リー公演

11日 6.30PM 中日劇場

◇アイザック・スターン・バイオリン演奏会

17日 6.30PM 文化講堂

◇パリ・「木の十字架少年合唱団」公演

24日 6.30PM 市公会堂

◆フラメンコギター・サビカス公演

26日 6.30PM 中日劇場

◇ウィーン交響楽団公演ヴォルフガング・ザヴァリ
 シン 11月9日 7.00PM 文化講堂



この欄は、AKC関係者の近況を知らせ合うためのものです。ドンナことでも、ダレのことでも、是非お知らせ下さい。

新役員 出そろう

さきのC・F・Gブロック関東関西ブロックの補充選挙の結果、次の方々が新役員に決定いたします。

・Cブロック	水野公子 (十三)	3票
・Fブロック	佐藤隆彦 (十七)	3票
・Gブロック	浦部くみ子 (十八)	4票
・関東	三好和憲 (一七)	3票
	渡瀬陽子 (十六)	2票
	岡崎美彦 (十七)	5票
・関西	江口一彦 (十七)	2票

なお、委員会では次の方を編集委員に推薦しました。

浅井幸三 (五) 君
安田軍二 (十三) 君
加藤久美子 (十五) さん
下条 豊 (十七) 君

◇白木倭子さん (十五) 〓山種美術館に学芸員として勤めておられます。なお新住所は次のとおりです

東京都渋谷区神宮町×××

◇足立靖子さん (十五) 〓すみれ短期大学美術研究室で美術の先生をしておられます。

◇高田靖子さん (十) 〓左記の所に住所がかりました。

倉敷市堀南×××

◇林茂希君 (十三) 〓左記の所に住所がかりました。

福岡県飯塚市宮町

朝日新聞筑豊支局

◇多田朋子さん (十三) 〓左記の所に住所がかりました。

名古屋市中千種区神丘町×××

◇隅田圭子さん (十三) 〓今回で退会されました。

◇ つどい ◇

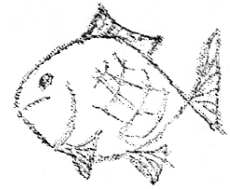
・七月三十日、恒例の夏のつどいが鼓ヶ浦で行われた。参加者五名という小じんまりとしたものであったが、けっこう楽しんで帰った。詳しくは6ページをどうぞ。

・八月六日、柳橋ガーデンビル、ニューヨークにて十八期生のつどいが行われた。参加者は、今井、岩崎、浦部、大竹、小出富、鈴木美、立花、津坂幸、内藤彰、新実、広地、牧野、の諸君。
・同じ六日の午後、十九期生が若宮神社に集まった。詳細不明。

委員会だより

八月十三日、今年度二度目の印刷、久しぶりの盛況。ところが、編集会議、原稿依頼、収集、わりつけ、この間わずか2週間、ガリ上がった原紙が少なかったため、仕事は遅々として進まず。ともすれば、雑談に花が咲いて…。浅井さんは、遅くとも春、真知子さんは三月(みつき)ともつまい、私がオバサンなら道郎さんはオジイサンヨ等々。参加者は、浅井幸三、鈴木道、伊藤真、磯貝、岡崎、佐藤隆、下条、新沢、三好、浦部、それにホスト役の小出富、帰省中の佐藤征のみなさんでした。

CHORUS

七月下旬～
到着順

浅井 幸三(五)

☆ 時の流れて人を変えるものだと思います。それがあたりまえであり、よい、悪いを論ずる以前のことなのに、いまのヴォーカライズにとって最も致命的なのが、この「時の流れ」だとは言えないでしょうか。古い仲間が一人そして二人とやめていく。結婚する人も以前だったらきつと事前に知らせてくれたのに、今はそうした雰囲気さえない。これでいいのかな、自分だけが年をとってしまったのだろうか……。ぼくは考え込むのです。

☆ 95号の「オシエテチャョダイ」を読んで私はある意見を持ちました。でも、ここではふれません。いずれ委員の皆さんにはゆつくり教えるつもりですし、会員の皆さんには昔のヴォーカライズを思い出していただくつもりですから…。

水野 公子(十三)

そろそろ夏休み、でも完全な休みは少ないもの、ゆつくりハネをのばしたいです。

宮部 杏子(十五)

お元気ですか。
私 元気です。
毎日暇ではありません。
忙しいんです。
それでも私は元気です。

今井 素子(十八)

近況Ⅱ七月二日帰省
予定Ⅱ八月二十九日上京

それまでに十五号を二枚描くつもりです。

文句Ⅱ名古屋は暑くて暑くて、

小出富士夫(十八)

近況Ⅱ(カビによる) 芸術的なパンにこまっています。(七月初旬)

予定Ⅱいろいろと楽器をなぶろうかな。

渡瀬 陽子(十六)

七月三日から十七日まで、教育実習で中学へ行っています。でも、今は教えることより遊ぶことに気をとられています。理由は何となく(?) 悲しいから、そのためには遊びましょう…というわけです。卒論も本当からいえば、もう見通しがつく位になっているはずなんですけれど、

これも手がついていません。これで卒業できるでしょうか?(クイズ)

桜井 照代(十三)

毎日家の中ばかりにいますので、外からの通信に大いなる興味をもち、郵便受けを毎日のぞいています。新役員の皆様、どうか一年御苦労ですが頑張ってください。

酒井 君枝(十八)

岡崎の教育大で楽しい毎日を送っています。クラブはギター・マンドリンクラブに入り、パートはギターです。大学に入って思うこと、「大学って、何とコンパの多いことでしょう。」

長谷川義祐(十七)

去年より我が慶応義塾大学メシアン・コラール(MECIAN CHORALE)の棒振りのポジションを与えられ張り切っています。MECIAとは、工学部の各科の頭文字で、工学部の合唱団ということになります。男声ですが、週一回国立音楽大学と混声もやっていて、両方とも棒振りをやっています。

A K Cの方は混声合唱団コラール・コラ

ーレとしたそうですが、「混声合唱団・合唱団・合唱団」と訳すことができますねー？
 こちらは実験レポートに追われ、練習時間も少なくなかなかうまくなりません、秋の三田祭には出演しますので、ぜひ聞きに（見に）いらしてください。

広地 千曉（十八）

一九六〇年のフェラーリはホイールキヤンパーの変化が少なくロールセンターも低位置となる上下トランスバースリンクによる後輪独立懸架を採用した。基本的なレイアウトは、クーパークライマックスと同じく上下不等長なダブルウィッシュボーンタイプで上下の鋼管製三角リンクはそれぞれX型補強材が中央に溶接され剛性を高めている。アッパースリンクのインナーピボット部はセッティング位置を三カ所に変えることができロールセンターやキャンパー面を変化させることも可能である。ロワーリンクはかなり広角の三角リンクとし前後方向の荷重に対する剛性を高めている。ドライブハーフシャフトは両端におのおのユニバーサルジョイントを有したスライディングスプリンススリーブシャフトである。サスペンションスプリングはかなり長いコイルスプリングでコニテレスコピックオイル

ダンパーを内蔵し、上下ウィッシュボーンの中心からドライブハーフシャフトをさけ後部にオフセット設置される。アンチロールバーはとくに使用されていない。ブレーキは全輪ダンロップ製ディスクが採用されている。

高田 靖子（十）

一体こんなに沢山の水が空のどこにたまっていったのかしらと思いました。よく降りました。普通なら海で真黒になれる季節ですのにあちこち被害の悲しい報せばかりですが、皆様ご無事でいらつしやいましたでしょうか。
 私ども先月引越しいたしました。こんどの家はたんぼや畑の沢山あるところ。近くの川にはザリガニもいますしドジョウもいます。はだしで走りまわれる広っぱも沢山あるし、海も近いし、空気はきれいだし、陽の光はまぶしすぎるくらいだし：私も娘もごきげんです。当分いなか暮らしをたのしみます。どうぞお出かけください。

足立 靖子（十五）

四月に東京から名古屋に帰りまして、今、東新町にあるすみれ女子短期大学の美術研究室に在籍、短大の先生を勤めて

います。なにせ年があまり変わらず先生だか生徒だかわからないような毎日をすごしています。今年こそは夏のつどいに出席したいと思っていました、あいにく月末から八月初めにかけて上京しなくてはならず残念です。皆さんにお目にかかれる日が待ち遠しい気持です。

磯貝 文江（十五）

委員になんて絶対にならないわって思っていたら突然になってしまったって困っています。委員になってちよつとだけ委員の仕事の大変なことがわかったみたいです。みなさんヴォーカライズについて何でもいいから言ってください。それがヴォーカライズを盛りたてる最上の方法じゃないでしょうか。

林 重希（十三）

九州に来てもう一年余。やっと九州弁も話せるようになりました。今は昔、石炭の町飯塚で地方版原稿に追われてます。事件の速報はどうぞ朝日新聞へ！

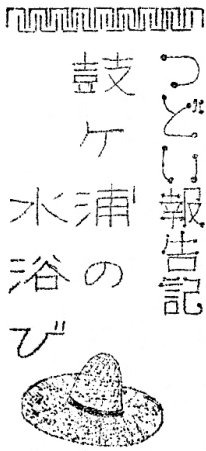
隅田 圭子（十三）

今までいろいろお世話になりましたが今回をもって退会させていただきたく思

多田 朋子(十三)
十回落選し十一回目に「特」がついて
ようやく団地なる所に住むことになりま
した。西山住宅は緑が美しくとても静か
な所ですので、のんびり屋の私にはもっ
てこいです。珍客歓迎ネ。

白木 倭子(十五)
現在、山種美術館に学芸員として勤め
日本画の勉強を致しております。とても
忙しくはありますが充実した日々をすご
し、又より一層、そうあろうと努力して
いる毎日です。

佐藤 隆彦(十七)
暑い日が続いています。今年の夏は忙
しいです。ゼミナール関係で目下三日に
一回位大学の方へ行ってます。今年の夏
の楽しみは八月三・四日のゼミ旅行だけ
になりそうです。



八時、階段の上から、さて、我ヴォー
カライズの一団はと見渡せども、とんと

見あたりません。場所を間違えたのかと
心細く思いながら捜すと、いました。い
ました。小出さんが一人、人待ち顔で立
っていました。「おはようございます。一
人?」「うん」心細い返事です。そこで、
じゃんじゃん電話をし、ようやく、安田
さんと久美子さんが来てくださることに
なりました。そこへ現われた道郎さん、
「何だ二人だけか。それじゃ僕も行く
か。」やつと五人になり、出発しました。
鼓ヶ浦に到着、見渡せば、はるか向こ
う迄、人の波、波、波。一体これで、私
たちの入る場所があるかしらと、心配し
ながら行きましたが、そこは偉大なる大
自然のこと、心配無用でした。

いよいよ海へ。僕は、絶対海へ入らな
いぞという道郎さん。まあ、どちらでも
いいが、少し泳ぐかという安田さん。ウ
クレレ片手にはりきつて、バリバリ泳ぐ
という小出さん。私、嫌だな。恥ずかし
いワという久美子さん。私?私はもちろん
ん、泳ぎましよう組です。人ごみをさけ
てテクテク:そしてジャボジャボ。あま
り泳ぎたがらなかった安田さん、久美子
さん、さては、カナヅチかと思いきや、
スイスイと泳げるんですよ。

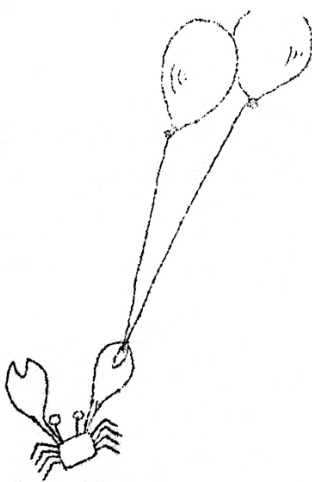
「あれ、皆泳げるんじゃない。違反だな。」
とは、道郎さん、四人の楽しそうな顔に
つられて水に入りかけました。それを見

ていた二人、よし、道郎さんを沈めちゃ
おうとばかり彼を追いかけましたが、道
郎さんは、手に時計をしつかり持ってい
ます。

「この手にかぎるよ。絶対離さないぞ。」
海からあがれば、小出さんのウクレレ
にあわせて、クラシックからポピュラー
まで、巧みに合奏するところは、やはり、
ヴォーカライズならではですね。

海に浮かぶアイスクリームの話、小出
さんの砂うめの話等々は、また、お会い
した時にでもお話ししましょう。

皆、相当いい年をしているのに、すぐ
学生時代の若さに戻って楽しむことがで
きる。これがヴォーカライズの人のいい
ところでしょうね。とにかく楽しいとい
いでした。来年も、きっと、参加しよう
と思っています。皆さんもいかがですか。



旭丘高校音楽部二十年史① 器楽室から鯨光館まで

(昭和二十三～三十年)

愛知県立旭丘高校が誕生したのは、昭和二十三年九月十七日だった。学制改革、学校統合、男女共学：吹き荒れた戦後の教育制度刷新から一高―市三の統合、新校名による発足と、あわただしい日が流れた。この年、音楽部の前身、旭丘クラインエル・コール（AKC）も生まれた。それから二十年。私たちのAKCヴォーカライズはこの間に創立十周年を祝い、来春にはVocalize創刊100号記念特集を迎える運びになっている。だが「十年一昔」という。わずかに二昔の月日の流れでしかないのに、私たちに残された歴史は、だれ一人の頭にも完全な形ではとどめられていない。寂しいことだ。先輩の歩いた苦難の創成期、華やかにソリストを輩出した黄金時代、コーラス一本になった現在のクラブ……たしかにある小さな合唱団がたどったささやかな道ではあるうけれども、その歴史を文字に書きとどめておく必要は、だれしも痛感したに違いない。たった二十年のことなのに、だれもがわかっていないのは不合理でさえあ

る。AKC二十周年、ヴォーカライズ100号記念として、私たちがあえって「旭丘高校音楽部史」編集に乗り出した理由もそこにある。

不幸にして、私たちに与えられた資料はあまりにも貧弱であり、ことに一二期、九十一期にいたっては空白期とさえいえるほどの乏しさだ。同時にまた、それらの時期を語りうる人が、私たちの仲間にいないのも事実である。一方、限られた紙数、五回連載というきわめて限定された時日に二十年の歴史を集めるハンディキャップもある。いきおい一年一年をごく短く、そして駆け足で通りすぎねばならないことになった。

音楽部五年史「カデンツァ」（26年度～28年度）の序文にこうある。：決して誇り得べき歴史ではなく、また満足すべき伸び方ではなかったが、多くの障害にさえぎられがちな高校クラブ活動として、曲がりなりにも歩み続けてきた努力は認められることだろう。このささやかなる歴史を、ともに励まし、ともに歌った人々

に、また今後音楽部の一員として、よき歴史を築くであろう人たちに贈りたい。そして、絶えざる歌の調べを期待し、なお一層の発展を望みたい……。同じことばを今度も序文にしよう。

【第一回参考資料】◇校史「旭苑」◇音楽部史「アカペラ」第1号 ◇音楽部同窓会誌「アカペラ」第2号 ◇「旭丘高校音楽部史・カデンツァ」（26年度～28年度）◇各年度音楽部発表会プログラム ◇浅井幸三「私史AKC昭和27年」◇同「かざぐるま・O版」◇同「フアン氣質（AKCの女性たち）」

Ⅱ第一回担当・浅井幸三Ⅱ

【注】氏名は当時のものにより、原則として敬称は略した。

AKCヴォーカライズ資料として保存していた「ア・カペラ」第1号、第2号が紛失しました。お手持ちの方は、ぜひ浅井幸三までご提供くださるよう、お願いいたします。



昭和二十三年～二十五年

A K C 時代



端的にいつて、この三年間は全くといっていいほど資料が残されていない。花村春樹（一期）須田稔（二期）加藤雄樹（三期）ら当時の責任者にも直接聞かねば何もわからないのが実際だが、その余裕がないので、発表会プログラムだけをたよりに、揺籃期の三年について、ごく簡単にしるしておく。

旭丘高校統合記念音楽会と銘打った第一回発表会は、二十三年十月二十三日、名経専（デジタル注：名古屋経済専門学校）講堂で行われた。一高：市三統合の日から約一ヶ月後のことである。その前日、小川卓爾校長の新任式があったばかりという、新発足のあわただしいときなのに、男声・女声合唱のみならず、混声合唱も二ステージあてられており、小京「文字不朗」みゆき先生が伴奏者として活躍している。まさしく中学校、女学校の延長とうなずかせるなつかしい曲目が並び、楽しくさえなってくる。プログラムには、明らかに「音楽部」となっており、クライネル・

コールは誕生以前であつたようだ。また、この年は学制切り替えで中学部も残っており、一～四期が一緒に出演している。鈴木道郎（十二期）の姉淳子（三期）の名もみえる。

二十四年春、こんどは学区制がしかれた。校名は同じでも生徒の顔ぶれがいくらか入れ替わったわけである。そしてクライネル・コールがプログラムに堂々と名を現わす。この年の発表会は十一月三日、淑徳高校の講堂で行われている。合唱はわずかに四ステージ、残り十四のプログラムが独唱、ピアノ、バイオリン、マンドリン独奏、トリオなどになっている異色さだ。そして先生の名は消え、現行の生徒だけによるクラブ運営のはしりが、ここにはみられる。最後の混声合唱を卒業生の花村春樹が振っている（曲目はうぐいす、ロンドンデリーエア、天地創造）ことから、後にしばらく続いた在校生。卒業生合同合唱の第一回と想像される。ダークダックスの一員佐々木通正（二期）も二重唱でプログラムに名を連ねているほか、小関正浩（三期）がピアノソロで三曲とも自作のピアノ曲を演奏しているのも注目に値する。

二十五年四月、初めて新制中学出の新生が八百四人も入学した。「二中魂」に欠けると上級生に怒鳴られ、生徒会の発

言ひとつにも文句をつけられる時代だったが、「旭丘」の実際のスタートはこの年にあたる。クライネル・コールの活動も活発になり、国民体育大会の「若き力」合唱、名古屋高校連合音楽会などの対外出演もあった。発表会は十一月二日に名大法学部講堂であり、わずかに一年の教職の座にしかなかった三瀬郁子先生が、若さにものをいわせてピアノ伴奏などに活躍、その献身的な指導が印象的だった。また公開の場で指揮をすることのきらいな都築健太郎先生も、珍しく女声合唱を振るなど、話題の豊富な年だった。人員的にも、内容的にも充実した部員たちで、クライネル・コールなどとはおこがましい：と、この年限りでその名をやめることになってしまった笑えぬ現象まで生み出した。プログラムのナンバーは何と十九を数える豪華さ、まさに絶頂期にさしかかっていた。

この年の暮れ家庭科教室に着工、翌年二月に完工式をあげたが、それと同時になじみの音楽室五室も誕生した。一号室はやがて部室になり、AKCも正式に音楽部と改められて二十六年度が始まる。以後、AKCは愛称あるいは略称として用いられているが、新しい音楽部の時代が始まったのだ。



昭和二十六年

「一号室」誕生



完成したばかりの器楽室、とくに一号室がぜん音楽部の中核になった。練習用ということ、原則として二人以上同時に入室することを学校側から禁じられていたにもかかわらず、ひどい時には二十人近くもラッシュアワーよろしく詰め込むありさま。ついには居直って、居住権を正々堂々と主張し、部室にしてしまったのだから、当時の「一号室人種」と異色を取った部員らのあつかましさがかろうというものだ。この器楽室五室は、とかく論議の的となり、五号室を器楽同好会に陣取られたりしたが、いまでは旧一、二号室の境の壁が取り除かれ一室になっ

てしまっている。この年の最初の行事は五月二十日の合唱祭だった。約六対一という女声部員が絶対権力を占めるときなのに、混声合唱で出演、はじめてといていい対外大舞台にみんながありがたつばなした。つぎは十月のNHK放送。このとき早くも女声は四十四人、男声十人と人数は

減っていた。わずか一曲「ファウストの祭の合唱と円舞曲」だけだったが、加藤清（四期）景山幽香子（五期）コンビが実現した最初の演奏だった。この年、音楽部は意外にもてた。七月には演劇部に賛助出演を頼まれて陰のコーラスをし、十月には振甫中学のピアノ開きに特別出演し仮設ステージ（グラグラする机を並べたもの）の上で冷汗を流したものだ。成人学級にかりだされ、メンバー不足で悲惨なコーラスも演じた。

年中最大行事、発表会のヤマ場はにかかって会場問題だった。市公会堂に白羽の矢を立て、一応借りる見通しはついたものの職員会議がまとまらない。練習よりもその会議の決定が気になる毎日だったが、やつと十月十七日にOKが出た。発表会の十一月五日に先立つこと約半月、ばんざいを叫んだ部員の気持ち、改めてしるす必要はあるまい。予算の関係で、プログラム代という名目で入場料を二十円取ることに、全部指定席。果たしてどれだけ入場券が出るのやらの心配をよそに、またたくうちにはける好成績だったのも大珍事ではあった。

男声合唱の練習は、いつも女声、混声のすんだあと、ナイトよろしく女性を送り帰したあとの夕刻からになった。そのため突然の降雨で男声陣そろって器楽室

で一泊という合宿騒ぎまで巻き起こした。それなのに、当日の発表会はあつというまに終わっていた。最後のステージで在校生六十五人、卒業生二十一人による「天地創造」の合同合唱も、練習当時のいざこざに比べて、なんとあつけなくすんでしまったことだったか。

続いて、初めて合唱コンクールに出場したが、あえなくも三位までの入賞を逸し、翌年二月下旬、CBCで私たちのコーラスの録音をしたときも、スタジオ待ちなどで平素の力を出し切れないでしまったのは残念だった。この日のメンバーは三十二人、年度始め八十人をこえる部員がいたのを思うと、心寒いばかりの激減ぶりだ。

付記するならば、二十七年一月に久松潜一詞、信時潔曲の「校歌」が完成した。混声四部の譜もついたりつばな曲だったが、全校生に覚えてもらうため、朝の集会ごとに音楽部員が前に立って歌うはめにもなった。だが、概してこの一年は、積極的に外へ出て歌う姿勢を示し、明る



昭和二十七年

発表会中心主義



漸減の一途をたどる男声部員、安定性のないメンバー構成……そういう矛盾をかかえながらも、なおかつ女声合唱一本に切り替えられない悩みがあったこの年は、AKC二十年の歴史の中でも苦悩に満ち、沈滞にあえいだ不振の一年といえる。

ようやくきびしさを増してきた大学受験のあおりで、二、三年生の補習が活発となり、いきおい週三日の練習日にもしわ寄せが及んで、出席率はなかなか伸びなかった。ある時期など、そのわずかな三日の練習日が、三人の指導者による分担となり、曲目まで変えるといった苦しさだった。

七月十五日、NHKから生放送（十五分）したときには、女声三十七人に対して男声わずか八人。混声二曲、女声三曲を仕上げるのが精いっぱいありさま。大切な放送だけに卒業生をトラに入れる、音楽を取っている三年男子の応援を求める……などのプランもあげられた。だが、

こうした自主性のなさが、やがて反主流派を生み、少なからぬごたごたの発端になっていった。夏休みの練習も出席不良で途中で打ち切りになる始末。発表会に重点をしばった方針も、前年の華やかな活動ぶりからみると退歩した印象しか与えず、何かとまとまりのない部内ではあった。

この一月に完成した校歌の発表会が、九月十一日になってやっと市公会堂で行なわれた。春日井分校音楽部と音楽受講男子の応援を得て、男声二十人を含む約八十人がステージに上がった。それまでの練習といえば、いつも当てにならぬ校歌発表会に備えてその仕上げに時間をさかれていただけに、やっと一つの区切りができた感じだった。だが、このとき公会堂を借りたことが、文化祭での公会堂使用を断られる一つの口実になってしまったとき、部員の落胆も大きかった。文化祭は十一月三日、淑徳高校講堂で決まったのは、わずか十日前だった。

この間、十月三十一日には春日井分校の音楽会にソリストを中心に九人が特別出演して面目をほどこしたと、第一回の逍遙歌、応援歌の作曲部門で、入選・佳作九編のうち六人までを音楽部員で占めたことが明るい話題といえる程度だった。

女声合唱七曲、混声合唱四曲という音楽会プログラムはいきおい独唱六、ピアノソロ二人というソリスト多用で埋められた。だが、懸念したとおりのひどい発表会になった。だれしもが最低のできだった。最後の女声合唱を耳にしたとき、同じ部員であるものすら信じられないうらいにまざったのだから、あとは推して知るべし。とくにたった五人の男声陣は、指揮、放送、幕の開閉、照明、そして自分のステージと、ありとあらゆる雑用まで分担させられ、完全にグロッキー、専門の舞台でないことを嘆かざるを得なかった。いろいろな道具を肩にして、とぼとぼ歩いて淑徳から旭丘へ引き揚げる夕暮れ、とかくもめごとの多かった部員同士の心が、はじめてつながり合ったさびしいひとときであった。それだけにまたその連帯感は今度は消えなかった。二十八年春、部誌「アカペラ」を発刊して、のちのヴォーカライズのさがけとなりまた「十年後の会」もスタートして、その中核メンバーを形成したのだった。

この年を最後に、しばらく混声合唱（合同合唱は除く）が途絶える。旭丘高校音楽部に女性中心の時代の波がひたひたと高まってきたのである。



昭和二十八年年度

副部長公選制



運動部への強制参加が実施され、文化系の各クラブにとって受難の時期が始まった。練習時間をさかれるばかりか、部員とは名ばかりで運動部へ行きっきりのメンバーさえいたのだから無理もない。前年の失敗にこりて、合唱祭、合唱コンクール、CBC放送など対外活動にも参加して明るさをとり戻しはしたものの、創立以来はじめての女声合唱一本やりでは、なれぬ面もたくさんあった。

副部長と会計が選挙で決められるようになったのもこの年からだ。それまで部長（生徒会の登録は理事）は前年度の副部長が昇格、副部長、会計は中心メンバーの互選といった形態がとられていただけに、たしかに一つの進歩には違いないが、部長選挙はしなかったのを思えば、まだ矛盾は矛盾として残っていた。観賞面へのテコ入れを図るためレコード観賞会もクラブの行事として取り上げられたが、これもやはり長続きはしなかった。いぜん男声部員は五指にも足らず、女

性中心のAKCだけに、合唱は女声オンリー、することのない男声はどうしようもないありさま。指揮者のイスの一端も桜山崇子（七期）に回り、久しぶりに女性指揮者が登場した。

音楽会は十月二十六日に市公会堂を会場にして行われた。特別出演の男声、合同合唱の混声を除くプログラムは、女声合唱の三メンバーのほかはソロばかりで、ピアノ四人、独唱七人、二重唱一という構成になった。一部から「門下生発表会」と皮肉られもしたが、うち一年生が七人を占めるという異例さは、合点のいかぬものがあつた。逆にいえば、ソリストの人事をめぐって毎回起きる紛争を、人林「材？」多用で避けたとの見方も成り立ち、さらにうがっていえば、男子陣の不満から部長の思いどおりの運営をしても反発を受けるおそれが少なかったともされよう。

だが、不思議な年であつた。この年度のメンバーの多くは、もちろん一年生は除いてであるにしろ、一度クラブをやめた人の返り咲きがひどく目についた。ふんいきが変わったから戻ったのか、それとも充実したコーラスを聞かせるために戻つてもらったのか、その辺の事情は明らかでないが、一度やめた部員が三年になつて復部するという例は、この年外に

はほとんどない。

プログラム自体へは何ら新鮮味はなく、女学校時代に帰ったかの印象さえある。ただ一年生のソリストの中で注目を集めたのは、久方ぶりの大型アルトといわれる水野令子（八期）のデビューだった。三年間ソリストとして舞台をつとめた人といえば、AKCの歴史の中でも桜山、水野の二人にとどまることを思つても、その価値がわかるう。

混声から女声へと生まれ変わりはしたが、この時期としてはやむを得ぬ必然のコースだった。むしろ、それがかえってよかったのか明るさを取り戻し、音楽的にいっても、前年の不振を乗り越えて、二十六年度に近い線まで引き上げることになった。クラブ運営のむずかしさ、人の和の必要さ、そして部員にとってさし迫った目標がどんなに心の張りになるかを教えてくれたのが、この二年間の対比である。また部長の水野俊彦（六期）が当時指摘したように、一人数役を勤めねばならぬ理事がややもすれば孤高になり、思いどおりに事が運ばぬあせりからジレンマに陥りやすかったことも、この時期におけるクラブのあり方を物語っている。だが、女声移行の初年度として忘れられぬ一年ではある。



昭和二十九年

「女性時代」始まる



音楽部に初の女性部長、桜山崇子（七期）が誕生した。以後三十二年度までの四年間、五代にわたる女声実権時代が続く。男声陣も含めた部員の統率、指揮指導、対外交渉などとかく過重とさえ思われる大任を勤めあげ、AKC女声時代の基礎を確固と築きあげたその功労は、大いにたたえねばなるまい。

最初の行事はCBCの放送で、五月下旬のことだった。小曲ばかりではあったが、指揮を予定していた都築先生に断られて、ピアノをひく部長のサインだけという苦しい録音だった。続く六月六日の合唱祭も、試験前というハンディから参加者わずか十九人、やはり先生に指揮してもらえず急いで永井充（八期）を指揮者に仕立ててステージをつとめるという、波乱のスタートだった。

このころAKC同窓会をつくろうという話を持ち上がり、卒業生と在校生の代表が集って発足にこぎつけたが、夏に「アカペラ」の第二号を発行したのと、「AKC

C同窓会報」一号を出しただけでもろくも挫折してしまった。AKCヴォーカライズの前身であるこの同窓会の生命は、約三ヶ月という短いものだった。

文化祭での音楽部発表会は十月二十四日に市公会堂で決まった。スーパードライの鍛え方はきびしかった。ソリスト、伴奏者、コーラスに次々とダメを出し、何ヶ月も練習してきた予定の出演者を、とても舞台には上げられないと前日になってやめさせてしまうほど音楽には厳格であった。

ところが当日になって思わぬ事態が巻き起こった。音楽部が先で演劇があとと、公会堂側へ間違って連絡した生徒会役員のおかげで開演時間が三十分以上も遅れ、予定の時間に終りそうになくなった。このため十六のナンバーで組んだプログラム（合唱四、独唱六、ピアノ五、バイオリン一）のうちコーラス二曲、ソロ一曲を切るハメになり、一部と二部も間の休憩もない強行スケジュール。内容的にはかなりまとまった発表会ではあったが、印象的にはずいぶん損をした年である。最後の合同合唱「オレンジはかおり」は、わずかな男声部員に出番を与えるための窮余のものであったにはせよ、練習不足の卒業生側との呼吸が合わず、おせじにもほめられるではなかった。とにかく

く、この指揮をした都築先生の名を除いて、プログラムに一人も男子の名前が出てこない空前絶後の記録が生まれた。

例年会場探しで苦労したAKCではあったが、音楽と会場との密接な関係は否定できない。学校を出て発表会をしたのはこの年が最後になった。昼すぎ記念撮影をしたときの三年生は、女子ばかりで七人だったが、最高学年の部員がこれだけ残ったのも、やはりこの年限りになっ

てしまった。最後の行事は十月三十一日の合唱コンクール。公の対外活動に女性指揮者で臨んだはじめてのケースだったが、結果は参加十三校中の七位、可もなく不可もなくという成績にとどまった。しかし菊里、金沢二水などという常連組にまじつての中位だけに、旭丘としては上々の成績と桜山部長は判断していた。

結局、桜山部長の才能ぶりがひととき光る一年だったが、この年をピークに、AKCに衰退のきざしが見えてくる。人材豊富なソリスト陣も望めなくなっていく。それだけに、あえていうならば、AKCの輝ける栄光の年の最後の一年ともされよう。



昭和三十年度

鯨光館やつと完成



前年度の副理事選挙やり直しから、第二代女性部長に就任した水野令子（八期）には、つらい一年だった。最高学年の部員が少なくなり、またバックアップしてくれる支援者にも恵まれないという不遇があつたからだ。

さて、この年二十四人の新部員を迎え入れたが、男声はわずか一人。前から在部した永井充（八期）上前昌三郎（九期）とあわせて、いぜん三人という少数で、ぜひ混声合唱を復活させたいとの意気込みも薄れ、やがて新男声部員も退部してしまった。

五月十五日にCBC放送のための録音をした。女声合唱ばかり、それを小曲を並べてのこの年初出演だったが、できとしては決して満足できるものではなかった。しかも、放送日が局側から事前に連絡されず、自分たちのコーラスをきくことのできた部員の数はごくわずかだった。七月に加藤清（四期）が音楽の教生として旭丘に着き、音楽部の指導にも専念

した。秋に予定されている文化祭に、卒業生との合同合唱をする話もまとまり、その努力で新しく男声部員二人が入部を申し出てきた。そうした背景のもとに夏休みが始まり、八月下旬に十一日間の練習日を設けた。ところが、相変わらず人員がそろわず、能率的な練習を望むどころではなかった。運動系統の各クラブの合宿を例にあげるまでもなく、例年、夏休みの練習に部員の参加が少ないことは、クラブ活動の面で大いに反省する必要がある。

音楽部の発表会は、建設中の講堂兼体育館（鯨光館）が完成し、その披露を兼ねて行うという学校側の計画であつたが、工事は遅々として進まない。秋の予定が遅れ、十一月になつても完工日はつきりせず、練習にも身がはいらない日が続いた。いきおい、合唱コンクールも見送らざるを得なかった。やつと新春早々に講堂が完成、一月十九日に音楽会と決まったのは、もう年の暮れも近いころだった。寒い音楽室での練習によく熱気がこもってきた。

皮肉なことに、ピアノの最大のホープ伊藤瑜美子（九期）が十二月から菊里高校音楽課程に移ってしまった。とはいっても、プログラムには独奏一曲、合唱伴奏二曲を組み込んでしまっており、特別

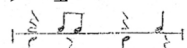
出演格で旭丘の制服で出てもらうという笑えぬシーンもあつた。三年生四人がこの日のプログラムに名を並べ、思いもかけぬ遅れをみせたこの年度の最大行事を飾った。また、二十人近い卒業生が加わつて、練習不足でとてもきけたものではなかったが、合同合唱の「美しく青きドナウ」でステージの最後を締めくくることができ、ようやく数少ない男声部員に、たった一つの出番が与えられた。

新しく購入されたコンサート用ピアノも、同日、井口基成を賛助出演に迎えて、ピアノ開きが行われた。

なお、音楽部同窓会は、三十年度夏、AKCヴォーカライズと名を変えて再発足、鯨光館完成を祝つて、発表会当日に「Vocalize」第一号を発行、さらに三月には反省号（第二号）を出したが、資金的裏付けをもたぬ不安定さと、役員構成の至らなさからくる運営不振から、それきりのものだった。そのためヴォーカライズが軌道に乗るには、なお半年の準備期間を必要としたのだった。そして、この年を最後として、合同合唱はまったく姿を消してしまった。

みんなの歌

リズム型



Slow Rock Tempo

銀 色 の 道

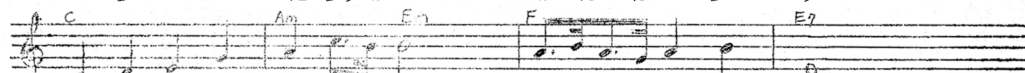
塚田 茂 作詞
宮川 泰 作曲



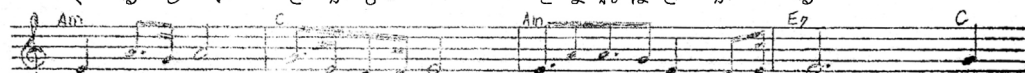
と お い と お い は る かな み ち は
ひ と り ひ と り は る かな み ち は



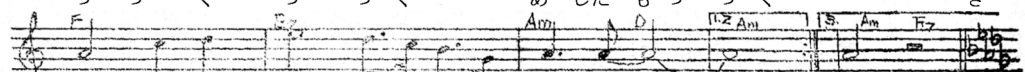
ふ ゆ の あ ら し が ふ い て る
つ ら い だ ろ う が が ん ば ろ が う



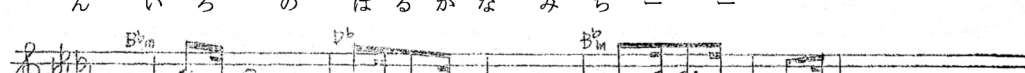
た に ま の は る は は な が さ い て る
く る し い さ か も と ま れ ば さ が る



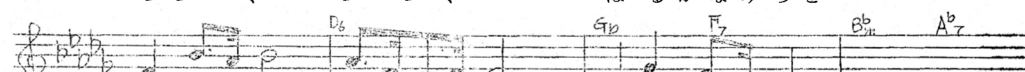
ひ と り ひ と り き ょ う も ひ と り
つ づ く つ づ く あ し た も つ づ く



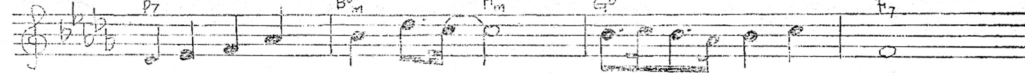
ん い ろ の は る かな み ち
ん い ろ の は る かな み ち



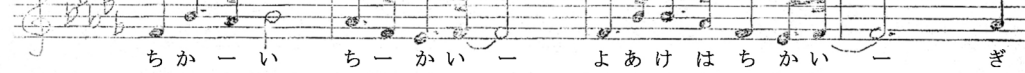
つ づ く つ づ く は る かな み ち を



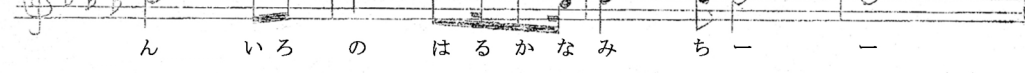
く ら い よ ぞ ら を ま よ わ ず に



ふ た り の ほ し よ て ら し て お く



ち か い ち か い よ あ け は ち か い



ん い ろ の は る かな み ち

プロフィール

Gブロックの新委員

うらべ

浦部くみ子さん

(十八期)

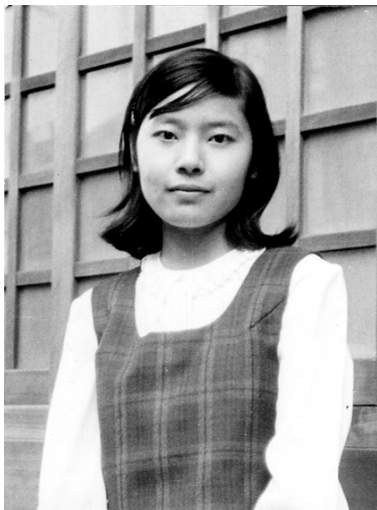
浦部くみ子、当年とって十九才五ヶ月。愛知教育大学二年生。彼女に会った人は、まず彼女のあの大きな瞳にひかれ、今の女性にまれな古風なものの考え方にひかれ、ついには彼女の虜になってしまう。しかしこれらの人達の中で、本当に彼女を理解している人は何人いるだろう。

目は心の鏡という言葉がある。彼女のそれはつぎる事のない炎の輝き。ギラギラと燃える夏の太陽。これだけでもあの静かな器の中に秘められた情熱がどんなものであるか御想像できると思いますが。どんな困難な問題にぶつかっても、彼女は後退する事を知りません。まるでからまった糸をほぐすように一つ一つもちまえの熱意で解いていくのです。彼女がおとなしく従順な女の子であると思っ

ていらつしやる方に一言。
彼女が、独立した女性としてのしつかりした意見と、時には頑固だなど思うくらい強い意思を持っているという事を知っておいただきたい。いくらあな

をそれに従わせる事は決してできないのです。いかなる綱をもつてしても。彼女を縛る事は決してできないのです。
私、彼女と友人の杯をかわして四年少々。彼女の魅力の虜になった最大の被害者はひよつとしたら私自身なのかもしれません。

(K・I)



「ネコ」これが彼女の通称。コールコラーレ (G4号9ページ) 発足の陰の功労者。最近の実験で遅くなり、終りごろ出てきますが。

彼女の大学の専攻は高校理科の化学。彼女の普段の様子からすると、まったく高校の化学の教師の姿が想像できません。さぞかしかわいいう高校の先生ができることでしょう。最後に委員になった彼女の今後のヴォーカライズでの活躍に期待しましょう。

(F・K)

たばこの味

鈴木道郎(十二)

暑い、といっても夕方になるとどこからか涼しい風が吹いてきます。この風に吹かれながら、屋上のチョウチンで飲んだときのおはなし...

係長〓おい、このたばこ、すってみろ、ちよつと味が違うぞ。

同僚〓ハイライトですね。(火をつける)

係長〓ただのハイライトと違うんだ。

同僚〓(一服すって) わからんですね。

係長〓わからんか? (ニヤニヤしながら) ルートが違うんだ...

同僚〓(さかんに首をかしげながら) ハイ

ライトの味だけだなあ。(ここで、もう

一度深くすって) わかりませんネ。

係長〓わからんか、それでは教えるか。要

するに、このたばこは、俺が金を出して

買ったたばこだということだ。70円

出して俺が買ったたばこを、おまえ

たちにすすわてやっていると

い。だから、当然味が違ってい

い。よく味わってすいたまえ。

(ニヤツとする。)

よしよし

プロフィール

関西支部の新委員

えぐちかずひこ

江口一彦君

(十七期)

我々ヴォーカライズの会員の中で、異色な存在である江口一彦君を紹介します。彼は旭丘時代、体操部のキャプテンでありました。その当時、AKCの文化祭、演奏会には、いつも彼の姿があり、録音や写真撮影を快く引き受けてくれました。そして卒業後、去年の恵那峡合宿等を機に(ヴォーカライズ91・92・93号を参照ください。)ヴォーカライズに入会されたのです。

現在、京都大学・電気工学科に在学中であり、自動車部に籍をおいて、タイヤの音をききませながら徹夜ドライブもやっています。ことです。でも現在は安全運転励行中とのことです。から、どうぞ安心して御同乗ください。とにかく彼の自動車熱は相当なもので、中学(学大附中)のときには、年賀状にまで車の写真が貼ってある始末、現在も暇さえあれば炎天下をものともせず、車みがき、エンジン調整と余念がありません。乗用車では物足りなく、現在、大型トラックの免許をとるための準備中と聞きますから、その

うち「ダンブカーで世界一周」ということになるかもしれません。とにかく、現在の彼の恋人は、彼の愛車(ブルーバード60年型)のみだそうです。彼曰く、「女性の気持は全然分らないが、車の気持は良く分るからねえ。」ごもっとも…。この様に彼は十七期特有の(関係ない?)きわめてマジメで純真な好青年です。

今回、関西ブロックの委員に推されましたが、同期の岡崎氏と協力して、彼特有の明るい、はつらつさを、ヴォーカライズに吹き込んでくれることでしょう。

(Y・S)

【注】この筆者たる下条氏は、~~車違反~~、~~車~~、速度 over 1 回のつわ者であるので、違反0(ゼロ)の江口氏に対してかくも謙虚な文章となったのであります。

(ザ・デ)

シックス・シリーズ
(76)

江口一彦君 (17)

写真はこの欄におはり下さい。
なお、写真はつごうで次号に同封します。

撮影者 三好和憲 (17)

デジタル注

配布されたものは、数文字を
ボールペンで塗り消してある。

Invention

◇毎日暑いですね。お元気ですか。

◇葉書の帰ってくるのが少なくて、どこかで迷子になっているネ。

せっかく帰ってきたのに何も書いてないのもありました。

そんな葉書は悲しそうです。これからはネー何でもいいからたくさん書いて忘れないようにポストに入れてくださいネ。

◇AKC二十年史いかがですか……。

聞いたこともない人の名前がズラリって感じた人もいらつしやるでしょう。

でも、みんな私たちと一緒にクラブ、お互いに仲良くしましょうヨ。

◇今年度の流行は海水浴より「スキндаイビング」。涼しい海中散歩はいかがですか……。

ご希望の方は紹介します。

それもいいやな方は表紙の詩でも口ずさみながら昼寝でもして夏を快適に……。

◇みんなの歌、今月はリクエスト曲です。歌曲、民謡、ジャズ、シャンソン、ポピュラー、歌謡曲なんでも結構です。どしどしリクエストしてください。

◇皆さん、最後にいやなお願い。

会費を忘れないように送って下さい。特に多額未納の方。

(F・I)

LOCALIZE

発行：旭丘高校音楽部出身の会 AKCヴォーカライズ 連絡先：愛知県西春日井郡 鈴木道郎

秋風の歌

西条 八十

秋風のなかにういてる
あれは赤い日暮雲だよ

秋風のなかをとんでる
あれは寂しい渡り鳥だよ

秋風のなかでゆれてる
あれは紫のすすきの穂だよ

秋風の道で泣いてる
あれはきのう

なつかしい人と別れて
むねいたむ わかい人だよ



第十九回旭丘高等学校祭

「音楽部演奏会」のお知らせ

恒例の旭丘高等学校祭が、十月六日から五日間ひらかれます。このうち、七日、八日の両日、文化祭行事の一つとして、音楽部演奏会が鯉光館と音楽室において行われます。おもなプログラムを裏面に掲載しました。いつもいつも、お知らせが遅れたり、プログラムの調査が不十分だったりで申し訳ありませんが、今年もぜひお出かけ下さいますよう御案内申し上げます。

今年は、旭丘二十周年……音楽部二十周年にあたります。わたしたちが歌ったあの歌を、若い彼らが歌うのを聞きながら、昔を思い出すのもよいでしょう。若い彼らに続いた道、私たちの通った道をふりかえるのもよいでしょう。伊勢湾台風のために、せっかく準備した演奏会を返上して土のう作りに励んだ十三期のみなさん、ほんとに残念でしたね。ひっそりと、音楽室でうちわだけでやった演奏会……しかし二十年のうちの大きな部分の一つでした。

とにかく、みなさん、十月七日、八日の午後、一号室で会いましょう。

昭和 42 年度旭丘高校文化祭 音楽部演奏会プログラム (一部)

10 月 7 日 (土) 2:30 pm 於 鯨光館 I マドリガル集 指揮 市川 朗夫 かわいいフィリス この五月 etc. II 男声合唱 Deep River 秋のピエロ etc. III 現代日本の歌 指揮 菅野 道雄 「田舎の歌」全曲 IV 「天地創造」より 指揮 市川 朗夫 天は神の栄光をかたり etc.	10 月 8 日 (日) 2:30 pm 於 鯨光館 I 日本民謡 指揮 菅野 道雄 松前追分 島節 子守歌 木曾節 etc. II 男声合唱 狩人の合唱 我が歌 etc. III 「子供と笛」 指揮 市川 朗夫 日本列島 風 IV 現代日本の歌 指揮 菅野 道雄 椎茸 アレグレット
* 女声合唱 麦藁帽子 「火の国 水の国の譚」より 2 曲 10 月 7・8 日 10:00 am 4 階音楽室	

Invention

・お久しぶり、お元気ですか。
・秋、秋、秋……一昨年の秋、
ヴォーカライズ十周年記念号を
お送りする約束をしました。そ
して、のびのびになっていたの
が、やつとできあがりしましたの
で、お送りします。同封の写真
は、パーティーの最後に記念に
撮ったのですが、数に不足が
ありますので、当時会員でなかったみな
さんにはお送りしません。御了承願いま
す。

・この二年の間に、ずい分いろんなこと
がありました。永井さんはじめ退会者の
続出、渡辺さんの退会で十一期がポツカ
リ。会員の移転先不明も多くなりました。
AKCとの連絡も疎になりました。なぜ
こうなってしまったのか、これについて
は何も言いたくありません。なにを言う
勇気も、なにをする元気もなくなってい
ましたようです。ただ惰性で動いている
ような毎日……。

・ロンドンからたよりがありました。十
一月中旬、日本に着くそうです。藤野さ
んが帰ってくれば、ヴォーカライズもま
たにぎやかになることでしょう。

・はがきをまだ出してないみなさん、ひ
とことだけっこうです、書いて下さい。
(みちお)



十周年記念パーティー写真 この号外に同封されてきた

10周年記念パーティー

写真 説明

いずれも左から

(前列)

鈴木 道郎
△高原 一郎
(坊や)
水野 俊彦
毛利 豊
斉藤 正雄
○森下 先生
○都築 先生
片山真知子
横橋 貞夫
高原 敏子
太田 岸子
新沢 宏
△大川 睦夫

(中列)

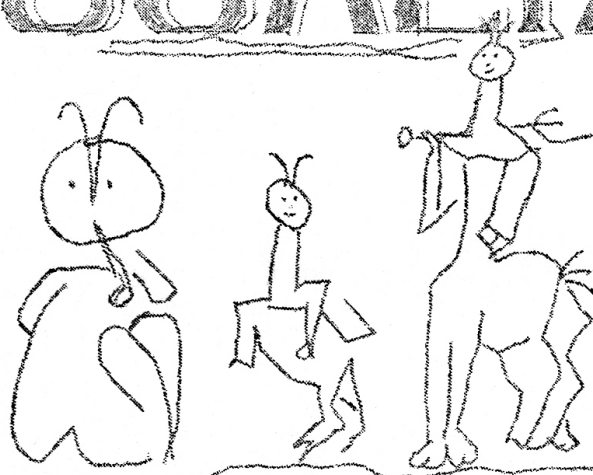
△板橋 祥子
△長江 欽子
△市川 初美
△村上 静子
△那須 紀子
△大林 和子
加藤千鶴子
浅井 幸三
宮部 杏子
磯貝 文江
鈴木由紀子
津坂 絢子
△森谷 町子
△鬼頭香糸子
永井 充
△永井 洋司

(後列)

小出富士夫
服部 修
鈴木 茂
佐藤 隆彦
岡崎 美彦
高木 溟祐
上前昌三郎
能仲 徹
野村 圭子
水野 公子
藤野 絢
加藤久美子
伊藤真知子
広地 千暁
○顧問
△非会員

VOCALIZE

十周年記念号



発行 旭丘高校音楽部出身者の会 AKC ヴォーカライズ

十周年記念号目次

- ◇ 十周年によせることば 2~5
松沢、伊藤伊、藤井、横山、高田、
高橋昭、増田、具島、渡瀬、富田、
中村、福田、藤野、都築・森下顧問
- ◇ 座談会「あすへの道は遠くとも」 6~10
浅井、永井、鈴木道、伊藤真
- ◇ 十周年パーティー報告記 14~19
藤野、宮部、大川、石川
東海女子高音楽部
出席者名 写真説明
- ◇ 卒業生に望む 12~13
小出、浅川、石川
- ◇ AKC ヴォーカライズ十年の歩み 20~21
- ◇ AKC ヴォーカライズ会員便覧 22~23
- ◇ AKC ヴォーカライズ規約 11
- ◇ AKC ヴォーカライズ小辞典 4・11・19
招待席C、合唱団
AKC、ヴォーカライズ、器楽室
サリマライズ
合同合唱、デサフィナード
ア・カペラ、カデンツァ・アンコール
- ◇ インベンション(あとがき) 24
II 編集 II 伊藤真知子(十四)
浅井幸三(五)

10周年に寄せることば



昭和三十年十月、AKCヴォーカライズと名乗る私たちの会が、正式にスタートしました。

それから十年：決してめざましい発展でも伸長でもなかったけれども、一つの区切りとして、四十年十一月に十周年記念パーティーを催すことになり、会員の皆さんのみならず、友人、家族の方たち多数をお迎えして和やかな一日をすごしました。

ここに上げたのは、そのパーティーにさいして、会員の方々、顧問の先生方から寄せられたお祝いのことばの数々であります。



松沢 暢夫（六）

せっかくの十周年記念式典（？）に出席できないのは、たいへん残念です。久しぶりになつかしい面々にお会いできるチャンスなのに。

ヴォーカライズもとうとう十才ですネ。まったく同慶の至りです。ぜひ二十才、三十才と生長していくよう、心からお祈りもし、協力もいたします。もつとも、ヴォーカライズが十才ということは、私は三十才、こっちの方はちよつとさびしいですけれど。

今日のパーティー、きつとすばらしいことでしょう。遠く神戸の空から盛会を祈っています。

伊藤伊都子（六）

十周年記念、おめでとうございます。盛会であるとともに、また何年か先に開いて下さい。今年出席できなかった人も、次回には出席できるように。パーティーの成功をお祈りしています。

藤井 容子（六）

ゴ セイカイヲシユクシコンゴ ノゴ
ハツテンヲイノル
多少遠いのが残念です。汽車チンがちよつと足りないので、アキラめざるを得

ませんでした。満場の皆様方、どうぞ楽しく愉快にお過しくださいます。

横山二三子（七）

ヴォーカライズにとって初めての、記念すべきパーティーに出席できないのをとても残念に思います。次の機会にはぜひ出席したいと思っております。どうぞご出席の皆様、私の分まで楽しい一日をお過しくださいます。

高田 靖子（十）

おめでとうございます。ほんとうにとてもでございます。牛のようにのろい歩みであっても、息

ぎれがしたら休みながらであつても、ずっとずっと歩み続けてほしいものだと思います。どうぞどうぞ永生きできますように……。

高橋 昭弘（十二）

「十周年おめでとう」と、いったいだれにいえばよいのでしょうか？僕はちつともやってこなかったし、やってきてくださった方ご苦労様などというのもしらじらしいし……。せめてパーティーを楽しく（集まったすべての人にとって）やつ

10周年に寄せることば

てください。

増田 礼（十三）

いつもながら非協力的な会員で申しわけありませんが、ヴォーカライズの機関紙をなつかしく拝読している一人でもあります。この会がいままで続きますように、心からお祈りいたします。

具島美保子（十四）

皆様お元気でいらつしやいますか。

私がこのヴォーカライズに入っていたいから、もう六年余り。ときには何ヶ月もとぎれて心配したのですが、ここまでよく続いたこと、ほんとうにうれしく思います。また、そのために努力してくださった方々にお礼を申し上げます。園部（高田）さんが書いていらつしやるように、名古屋に住んでいないものにとって、ヴォーカライズは、ただ一つのつながりです。これからも、ますますよい企画

で私たちをたのしませてください。

渡瀬 陽子（十六）

委員の方たち、どうもごくろうさまでした。でも、私たち、このヴォーカライズが届くの、とても楽しみです。これからもすばらしい号をおねがいます。会員の皆様も、一緒になってヴォーカライズを育てましょう。

東京にいて出られないのがとても残念です。

富田 香代（十七）

ヴォーカライズ十周年おめでとうございます。来年一月六日に行われる「救世主」の合同練習（日曜ごと）もいよいよ本格的となりますので、残念ですが欠席させていただきます。

私もヴォーカライズの一員として、ヴォーカライズの今後の発展と、このパーティーが楽しいものとなることをお祈りいたします。

中村瑜美子（九）

ご親切な招待状とヴォーカライズ機関紙ありがとうございました。

名古屋で、リサイタルを開きましたおりにも、旭丘の先生方、同級生にたくさんいらしていただき、たいへんうれしく思います。現在大阪音大の講師をしておりますので、名古屋にもなかなか帰る暇がなくて、ほんとうに残念です。

いつも機関紙を送っていただきましたので、一度お礼を申し上げなければと思っております。名古屋に帰る機会がありましたら、ぜひ皆様にお目にかかりたいと思っております。

会のご発展を祈ります。

〔注〕旧姓伊藤。高校二年の途中で菊里高校音楽課程へ移り、東京芸大卒。水野俊彦君のリサイタルでピアノ伴奏をしたこともある。現住所・大阪府枚方市香里ヶ丘×××

福田 常彦（十五）

A K C時代をなつかしく思い出しています。パーティーの成功と「みちおさん」の今後ますますのご健闘を祈ります。

10周年に寄せることば

会員である誇り

海外で機関紙を待っています

藤野 絢(13)

ヴォーカライズ十周年おめでとうございます。高校生活の始まりと時を同じくして、私も会員の一人にしていただき、楽しい思い出もたくさん積むことができました。

学生生活というものは、それが終了してしまえば個人的、定期的な形を除いては、もう密接な関係はなくなると考えていました。そして、小学校も中学校も、社会に出たあとにまた一年間通った洋裁学院も、考えているままの存在となっていました。

でも、高校生活で味わった、すがすがしい楽しさ、明るさ、親しさは、AKCになじんで何よりも強く感じ、いまなお私の体内で新鮮に生きています。ある朝、階段に設けられた郵便受けに見る茶色の、あの大きな封筒は、若さを失いかけた毎日の生活に大き

な力を与えてくれます。一度も声を合わせたことのない人や、お顔さえ記憶に薄い人等、未知であるはずの人々がこんなに身近に感じられるなんて、このすばらしさは会員の一人だからこそ味わえるのでしよう。

履歴書や役所の書類に「所属団体名」を書き込む欄がございますね。提出する必要のないときなど、わたしはよく「AKCヴォーカライズ」と記入して得意になっております。私には、この「旭丘高校音楽部出身者の会」の中にいることが、何よりも誇りになっているのです。

このたびの海外行きに言いようのない不安とさびしさを感じながら、最大のなぐさめとなるのは、きつと皆様の明るい、そしてちよつぱりユーモラスな機関紙でしょう。

ことばのわからない国では、テレビも映画も雑誌もかえって私を孤独に誘うのみだと思えます。そんな中で私が初めに受ける楽しみは、きょうの祭りの記事にうもれた機関紙と、首を長くして待っております。

みずから望んで実現したこの生活に一日も早く慣れて、たくさんものに触れてみたいと思えますが、どこまで自分のためすことができますか、さっぱり見当がつきません。

そんなわけで、きょうのおめでたい日にちようど間に合うべく、あちらから祝電とも考えましたが、出発前のひとときに申させていただきます。

これからもますます発展して、よりよい会となりますようお祈り申し上げます。おめでとうございます。

小辞典

招待席C 会員を演奏会に招待し、その感想を紙上に発表してもらう趣旨で始められた。三十二年六月のリチャード・タッカーから三十六年五月にいたるまで、三十九回にわたって企画され、好評を呼んだ。

ヴォーカライズ合唱団 第一期は三十六年四月に発足、母校を練習場にして毎週一回行なっていたが、間もなく有名無実化した。第二期の合唱団は四十一年十月に中区丸田町の河合音楽教室を会場にスタート、十七期生を中心に活動を続けている。新しく生まれ変わった合唱団のメンバーが、いまのヴォーカライズをささえる中核となっている。

10周年に寄せることば

おめでとう10周年

都築健太郎 顧問

十年一昔という。どんな仕事でも十年やればまあまあ一人前である。たいへんなできごとである。このような仕事は、何か中心になる人がいて、その人の熱情がなければ、とても達成するものではない。まして音楽をやるような人間においておや。これは、おこられるかもしれないが、自分をふりかえって、まあ自分のことをいっているなと思ってお許し願いたい。

この会報もたびたびいただいて、あまり知っている人も少なくなつた。先日職員室で、よくクラス会などはやるが、クラブなどの会は少ないというような話が出たが、ふしぎと私は、旭の前の西尾高校でも毎年一回は必ず会合をする。ことしなどは二回もあった。おもしろいなど自分でも思っている。西尾の会でももういいおばちゃん、会合

しても子供の教育問題やご主人の話で一日暮れてしまうが、とても楽しいらしい。旭丘の十年昔の音楽室は、あのうす暗い一階のへや（現生徒会室）で、北の窓がしまらなくて、雪の降る日などは後ろの方はどんどん雪がまっではいるし、雨の日などはピアノの前の楽譜が読めなくて困つたものだ。暖房などもちろんない。ピアノは二十八年もたつた老楽器で、せめても音楽室があつたこと、それも作るのに三回も職員会議でつるしあげられたものであつた。音楽室のピアノがまたものすごいしろもので、市三高女のものが一応競売になつて、三千円で買い戻した歴史がある。

いろいろ音楽室での秘話も沢山あるが、あまり公表できないものもある。いずれにしても、十年の年月はそう短いものではない。よくもやってきたものである。おめでとうの一語で結んでおう。

盛んな未来を祈る

森下 千秋 顧問

ヴォーカライズ結成十周年を迎え、一言ごあいさつ申し上げます。

歌うことによつて慰められ、歌うことによつて勇気づけられ、歌うことによつて親しみが得られ、そして歌うことによつて胸がふくらむものです。その歌を愛する人たちによつてつくられたヴォーカライズは、愛情豊かな、愛情こまやかな人たちの集まりであると思います。けれども、社会人ともなると、心ならずも遠ざかることもありましよう。けれど、いつもその気持は変わるものではありません。この堅苦しさのない、楽しい、なつかしい仲間を迎えて、盛んになつていくことを心から祈ります。

お世話をしてくださる人たちには、たいへんなお仕事とは存じますが、悲しいとき、あるいはうれいときには、音楽は生まれるものです。音楽は創造できないものです。いつまでも、良き伴奏者であられんことを望みます。



AKCヴォーカライズ
10周年記念座談会

あすへの道は遠くとも

少しは委員の身になってください

ヴォーカライズの個人崇拜の傾向が、僕はキライです。浅井天皇をつくり出したのは何なのか考えてみます。この間の、会員に基盤を置いていないというのと、ウラハラの関係だと思っています。機関紙にも委員会にも、そういったニオイがプンプンして、ゲッソリしてしまいます。

(十三期・高橋昭弘)

AKCヴォーカライズの創立十周年を記念して、歴代会長と主要委員による座談会を企画していたところへ、こんな批判が届いた。ややもすると脱線しがちに終わったのも、このハガキに由なしとはない。今の委員を侮辱する言葉でさえある批判にも、当然こたえねばならない。歴代会長のうち、森本進君(十) 安田軍二君(十三) が欠席、また予定していた川村朋子さん(十三) もついでに参加されなかったことは残念だった。

― 出席者 ―

伊藤真知子(十四)

三十五年に編集員として迎えられてから、今日まで委員4期、編集委員2期を数え、ヴォーカライズを背負う女性会員の最有力メンバーと目されている。現在「Vocalize」編集長、十周年記念号担当者。

鈴木道郎(十二)

三十六年以来副会長を4期連続して勤め、四十年度は会長に選ばれた。会員時代は批判者の位置にあったが、委員会ではつどい、編集などを担当、AKC側との折衝役として貴重な存在。4代目会長として大活躍中。

永井 充(八)

委員となったのこそ三十七年からだが、古くからヴォーカライズの写真を担当、プロフィール、つどいの写真でおなじみのカメラマン。最近の委員会活動は同君宅の好意によっている。十周年パーティー担当。副会長。

浅井幸三(五)

三十一年から6期会長を勤め、当初は一人でVocalizeを編集していた。創立メンバーの一員で会員の最年長者。現在編集委員、十周年記念号担当。(座談会司会・速記)

…委員は大いにグチをいおう…

浅井 きょうは、長い間ヴォーカライズで仕事をしてきたメンバーで十周年の反省やら夢を話し合う座談会だが、森本君、安田君、川村さんに参加してもらえなくて心残りだね。まず、委員として長いこと働いた想い出とか、そんなことから始めよう。

鈴木 委員会の外にいて、いろいろあった時代がある。よく考えると、あのころのほうがおもしろかった。(笑い)

永井 浅井さんは、よくグチを書いたね。よくまあ、これだけグチがいえるところで感心した。十周年記念にグチを集めたらおもしろいと思ったんだけど。(笑い)

鈴木 このごろ、グチも出なくなったし、文句もこなくなったという話をこの前したのでしよう。あれ、こっちがグチが出ないから、文句も出ないのではないかな。

永井 そう思って、きょうははじめからグチをいおうと思ってきた。そうしたら、あれ(高橋君のハガキのこと)だよ。よけいハラが立ってね。

鈴木 どうして、このごろグチが少ないかという、精いっぱいのことをやっ

ている。グチをいうゆとりがないというのかな。

伊藤 というより、いろいろあるけど、委員会のふんいきが、わりといいでしょう。なんのかのいいながら、そういうものでずいぶんカバーできたんじゃない。私は最近よくサボるけど、行ってみると、人間関係や居心地がいいでしょう。やっぱり、来てよかつたと思う。

：ハガキ一枚がみんなをささえる：

浅井 ヴォーカライズは委員だけのものという声もあるんじゃないかな。会員はいたって冷淡で、委員だけが仕事をしている面もあるが…。

鈴木 出も、それは、前はひとりだけのヴォーカライズといわれていたのが、なんとか委員会のヴォーカライズといわれるようになったということはいんじゃない？これからの傾向としても、だんだんそういうように広めていく意味において。

伊藤 私たちはつねに窓を開いているわね。でも、ちっともはいってきたくない。

永井 こういう仕事をするのは、いまの世の中では変わりものだと思うのだよ。

でも、ちっとも変わりものじゃない。これがあたりまえだ。なんにもやらないのが変わりものだ。

伊藤 自分のまわりには、現在の人間関係があるでしょう？グループでも一対一のものでも、そういうものがあるから、結局そのほうが強くなって、あえてヴォーカライズに飛び込んでくる必要性を感じないのじゃない？

永井 そこで、ヴォーカライズの本質論が出てくると思うんだ。積極的に飛び込む、飛び込まないということだね。最初のヴォーカライズというのは、消極的な会だということを自認しているのだね。それが、やってみた上で、積み重ねてから、ある段階がきた。それから可能性が出ていくわけでしょう。人間の場合は、みんなそうだと思うんだ。だから、積極的に加わらない人間は、加わるという意識がないと思う。本質的な意味でね。

浅井 消極的ということばが出たけど、ぼくがいつていたのはそれとは違うんだ。Vocalizeを出すだけとか、何もしないとかとは関係なく、一般に未来像に向かうのが積極的で、過去のつながりを大切にすることが消極的とされている論法によるものなんだ。単に消極的であったのなら、会員が百人近くにもなることはないよ。

永井 たとえば、ハガキを入れるということは、戻ってくることを期待して入れるわけでしょう。それなのに平気ではってある。そういう会員がいっぱいいるのは、相手の立ち場を理解してやろうという気がない。

鈴木 たしかにハガキの戻りがわるいということは、さびしいね。

：委員の役得は人間関係づくり：

浅井 一般の会員から委員として仕事をする立ち場になって、つらいことも多かっただろうけど、やっていてよかつたと思う？

伊藤 私、会へ入ってから、全然局外者としてやってきた記憶がないの。最初から運営のほうに入れられちゃった。だから、外からということとはわからないけど、私はやっていてよかつた。

鈴木 ヴォーカライズの目的、意義というものに、ご本人自身が満たされたからじゃない？自分自身がそういうことに満足できるからじゃないかな。

伊藤 人間関係でも、ずいぶん得しているしね。私もし編集のほうにしばらくいなかったら、結局、私もハガキを返すかどうかかわからないくらい、適当な会

員だったと思う。

永井 この会がつぶれようが、つぶれまいが、そんなことは全然抜きにして、よかつたと思うのは、ぼく個人がいろんな人を知ったことだな。それは、東京、大阪、名古屋と転々としている間にできたことだけど、自分の残した写真のうちでは、ヴォーカライズのプロフィールの写真が一番長く続いているね。

伊藤 私は環境が特殊でしょう。父も母もだし、先生ばかりでしょう。小学校、中学校、学大と、どこもみんな先生だから、とにかく先生以外の社会を知らないわけね。ヴォーカライズの中には、いろんな人がいるでしょう。いろんなことがわかる。そういう面ですごく勉強になったし、私自身は男のきょうだいがないでしょう。それに代わるような人たちがずいぶんたくさんできちゃった。そういう面でもプラスになったと思う。

鈴木 たしかに、きょうだいの少ないものにとつてはいいですよ。ぼくは姉がひとりいるけど、十年離れているから、ひとりつ子みたいなものだよね、育っているときは。きょうだいの愛なんて知らないね。兄貴がすごくほしい。下のほうにもいたらなんて思った。

伊藤 でも、ずいぶんこわい兄貴だから。委員会サバるとおこられるし…。(笑)

い)電話がかかるとビリビリしていた。

鈴木 きこのわが身を振り返ると、あんまり大きなことはいえないんだ。

：個人支配からグループ運営へ：

浅井 この辺で、問題の高橋君のハガキについて意見をききたいね。

永井 大体、なんだと思っているのかな。とんでもないことだよ。スターリン、毛沢東であれ、アメリカの側であれ、結局、引っ張っていく人間は必ずいるんだよ。別に天皇でもなんでもない。いっしょに同じレベルの上を走っているだけじゃないか。そんな考え方をされちゃ、アタマにきちゃう。

伊藤 去年からことしにかけて私たちがずっとやったことが、全然理解されてないわ。

鈴木 浅井さんとの結びつきというのは、すんだんだから。

永井 最初の出発点においては、みんなを基盤にする予定だったが、方法としては浅井さんが基盤になったんだ。だから、いまこの会を正しい方向に戻さなきゃならない。

伊藤 そのときにあった矛盾だけをいわれては、カチンとくるわね。

永井 いままで何を讀んでいたかということだ。会員の手で曲がりなりにも、ようやくやれるようになったのに、あんな受け取り方をしているなんて。間違った受け取り方にたいして、ハラがたつてね。

浅井 たしかに、ぼく自身考えてみても、ぼくひとりでやっていたことがあり、委員のみんなが浅井さん、浅井さんと立ててくれたことがあった。だから、そうした傾向をつくったことはいけなかったと責任を感じている。だから批判が出てもやむをえないと思うんだ。ぼく自身がいけなかったし、後継者を育てえなかった非力さが残念でならない。いま一生懸命やっていてくれる人は、ぼくが委員会にひっぱり込んだ人が多いだけに、よけいそう感じるんだが…。

：お互いの生活を理解し合おう：

浅井 これと関連して、森本君が会長当時に書いたことばに、ぼくはひどく反発したことがあるんだ。生徒のことを考えると、ヴォーカライズの仕事なんて、ばかばかしくてできないという内容だったね。

永井 ぼくは、そのときはなにかわか

るような気がした。でもやっぱり抵抗はあったな。

伊藤 私が先生の立ち場からいうと、あのときは森本さんが就職されたときだったでしょう。ヴォーカライズの仕事って、わりとまとめてあるし、一回だけじゃなく継続だものね。先生にとってみると、最初の三年から四年が勝負なのよ。その間にどれだけ広く勉強するかで一生が決まっちゃうの。

永井 その立ち場においてはよくもわかる。鈴木君も就職一年目だから、たいへんだと思ってる。だが、ぼくはやる範囲内ではできるだけやりたい。ところが未来の話になるけど、いまのままでいたら次期会長は、やっぱり該当者がいない。道郎君で押すべきだろうと思う。

鈴木 たしかに自分の職業に徹しようと思ったら、ああいう立ち場は理解してできないことはないんだ。でも、それだけでは割り切れない何かがあると思うんだ。

永井 仕事に徹するというけどさ、やれないことはないと思う。

鈴木 でも、批判のなかにもあったけど、機関紙だけにたよるんじゃないくて、お互いの生活というものを、もっと密接に知り合うことが大切だね。

伊藤 谷さんもそういつていた。この前、九州に旅行に行ったとき、結婚式の前の晩だったのに、会いに来てくれたのよ。こっちが心配しちゃった。そこで話が出たんだけど、名古屋を離れていると、すぐくヴォーカライズがいいというの。演奏会か何かあったとき藤井さんに会ったんだって。ヴォーカライズで知っていたからお話していたら、すごく楽しかった……ってね。

永井 すべて出発点にあると思う。

伊藤 ヴォーカライズの本部をよそに移すと、みんながありがたみを感じるかもしれないよね。(笑い)

：どうしてもほしい会の事務所：

浅井 最後にみんなでヴォーカライズの夢を話そう。

伊藤 夢というと、まずヴォーカライズ会館……。 (一同うなづく)

鈴木 〇〇号に載ったのが、やっぱり夢ですよ。

伊藤 昔は浅井さん、いまは永井さんの家で委員会やら仕事をして、ずいぶん家族の人に迷惑をかけているものね。自分たちの気がねのいらぬ会館がほしいわ。

鈴木 会館とまでいなくても、とりあえず一へやあればね。みんなで手分けしてアパートか公団住宅でも申し込もうか。

伊藤 委員がこんなことまで考えていること、みんな知っているかしら。

浅井 それに、謄写版はなんとか輪転機にしたい。百部以上も刷る手間はたいへんだ。輪転機にすれば、手刷りの何倍も能率が上がるし……。

鈴木 赤字財政ではとてもだね。だれかスポンサーはいないかな。

永井 ピアノが一台あれば、これをひく人も来るし。

伊藤 やっぱり音楽を離れては存在しないということもないけど、ヴォーカライズには音楽がなきゃね。

鈴木 いまの機関紙というのは、まったくそうなんだ。ぼくはそれをすごく気にはしているんだけどね。「最近の演奏会」も続けたいということと「招待席C」をほんとうにC席で復活させようかなと考えている。ぼくはとにかく卒業してから、というより、二年生の文化祭を終ってから全然歌っていないでしょう。だんだん離れていくばかりなんだ。きいていられも、バックグラウンドミュージックくらしいのききたしかできない。この間も演奏会に行ったけど、ほんとうにこっち

からこつちだ（両方の耳を指さす）。

伊藤 やっぱり、現実にやっていないときけないものね。

永井 それで、ヴォーカライズ合唱団の話になる。

鈴木 それができれば、ほんとうに緊密な合唱団なんだよ。一度はスタートしたのにつぶれてしまったけど。

浅井 音楽部出身者の会なのだから、合唱団くらいないと恥ずかしい。同窓会の幹事会でも何度もヴォーカライズの宣伝をしたのに、つぶれてしまったんじゃない。

伊藤 私の責任じゃないわよ。でも。なんでもそうだけど、中心になって働いてくれる人がいないとだめね。

浅井 練習場所がない、ピアノもない、指揮者の問題もあるし、障害が多すぎるね。つまるところ、ヴォーカライズ会館が必要になってきてしまう。

鈴木 合唱団だけは、なんとしても復活させたいな。（一同賛成する）

…十年の歩みを大切にしよう…

浅井 なんだかまとまりのない座談会になってしまったが、いいことがあったら出してもらおうか。

鈴木 浅井さんもしけないよ。会員が百人にもなったのに、八十人までは責任持つがその先は知らない、なんていったりさ。

浅井 それはしかたがない。ぼくが仕事をしていたときは八十人までだ。あとは知らない人ばかりになってきて、いままらどうこうすることもないからね。

鈴木 そんなのずるいよ。

浅井 あんまり、年寄りをいじめるなよ。現役じゃないんだから。（笑い）

永井 しかし、いまの会費とかいろいろなことを考えてみると、限られた制約のなかでやっているんだからね。その状況のなかで精いっぱいやるということがどんなにたいへんか、みんなにわかってもらいたい。

伊藤 機関紙一号にかけるお金というのは、はがきの五円を入れて郵送料だけで十五円、写真はたいてい二枚はあるし、いまの会費ではまかないきれない。しかも労力は無償よ。それなのに、会費すら納めてくれない人がいるんだから、ほんとうに困るわね。

浅井 結局、またお金の話になってしまつて、どうもいけないな。ところで、ヴォーカライズはこれからどうなるかだ。永井 これ以上会員はふえないと思う。在校生が批判的だから。卒業しても入会

してこないだろう。

浅井 会員は別にふえなくてもいいさ。無理にはいつてもらうこともない。いまいる人が続けていつてくれさえすればいいんだ。

伊藤 そうよ。とにかく十年たつたんだもの。ここまで来たのは、そういう批判をこえるものがヴォーカライズにあるからだと自信を持てばいい。

浅井 いいね。大賛成だ。いつも仕事をしてきた人間がまず誇りを持つとう。曲がりなりでもなんでも、ここまでやってきたんだ。そう簡単にはヴォーカライズもつぶれやしない。二十周年、三十周年、五十周年と伸び続けると思わなければ、グチばかりいつていたかいがない。

鈴木 在校生だって、分ってくれる人がきつとある。卒業したら新しい会員になってくれるよ。

浅井 ということで、座談会も打ち上げだね。十周年おめでとう。これからがんばりましょう。

A K C ヴォーカライズ規約

第一章 総 則

第一条 (名称) この会をA K C ヴォーカライズと称する

第二条 (目的) この会は会員相互の密接な連絡を通じて、相互扶助と親睦をはかることを目的とする。

第三条 (事務所) この会の事務所は、暫定的に旭丘高校音楽部内に置く。ただし、連絡事務所を当該年度の会長宅に設けるものとする。

第二章 会 員

第四条 (会員) 旭丘高校音楽部関係者 (卒業生、在校生などの別は問わない) 或いは、この会の趣旨の賛同者で、所定の会費を納入するものを会員とする。

第五条 (会費) 会費は年額、卒業生五百円、在校生三百円とし、会紙発行費、連絡費などの諸経費にあてる。ただし、各種会合については別途会費を徴収することがある。

第六条 (失格) 故意に会費を納入しないときは会員から除外する。

第三章 役 員

第七条 (役員) この会に会長一人、副会長二人、委員若干名を置く。これら役員で委員会を組織し、会長、副会長は委員長、副委員長の任務に当たるものとする。

第八条 (選挙) 各役員は会員の直接選挙に

よって選出する。この場合、役員が一定した期にかたよるおそれを除くため、会長、副会長は全体投票、委員はブロック投票とする。ブロックの決定は、当該年度の会員数に応じて別途決める。

第九条 (任期) 役員の任期は一年間とする。ただし、再選を妨げない。各年度は四月一日から翌年三月三十一日までとする。

第十条 (委員会) 委員会は毎月一回定例会をもつものとする。出席委員が委員の半数をこえないときは、運営その他に関する委員会決定をしてはならない。

第十一条 (会計) 委員の互選で一人を会計事務にあてる。会長の会計兼務は認めない。会計報告は毎年度最終の会紙上で行なう。

第四章 行 事

第十二条 (総会) 決定機関としての総会はこの会の性格上あらためて正規なものとしては規定しない。

第十三条 (行事) この会の目的達成のためにつぎのような事業をする。

- 1 会紙「Vocalize」の発行
- 2 ヴォーカライズのつどい開催
- 3 ヴォーカライズ合唱団 (仮称) 運営
- 4 旭丘高校音楽部、A K C ヴォーカライズの記録作成と保存
- 5 旭丘高校音楽部行事の支援
- 6 音楽観賞団体への加入あつせん
- 7 東京、大阪両地区に支部設置
- 8 会員の相互扶助

小辞典

A K C 旭丘高校音楽部の略称あるいは愛称。昭和二十三年九月創立から二十五年度まで旭丘クライネル・コール (Kleiner Chor...ドイツ語で小さな合唱

団という意味) を呼称していたため、その頭文字を取って略称にした。二十六年以降は音楽部を正式な部名としている。
A K C ヴォーカライズ 旭丘高校音楽部出身者の会。前身は二十九年六月に設立された旭丘高校音楽部同窓会だが、三十年八月に再発足しA K C ヴォーカライズと名づけた。(Vocalize...の英語読み。楽語としてはヴォカリーズと仏語読みが普通。母音で歌う曲)

器楽室 昭和二十六年四月に完工した器楽練習用の小部屋で、五室あったが、現在は一、二号室の間の壁を除いて一室にし、四室となっている。当初ふたり以上同時に入室することを禁じられていた。しかし一号室が音楽部室として貸与されたことから、その禁も守られず、居すわった形で名実ともに部室となった。

サリマライズ オランダ民謡というだけで、原曲。意味不明。二十七年にはじめて合唱曲として取り入れて以来歌いつがれており、いまではA K C ヴォーカライズのテーマソング格になっている。編曲は中村仁策。

AKCヴォーカライズと卒業生に望む

AKCへ来てください

小出富士夫（十八）

一事だけお願いしたいと思います。それは、ぜひ「AKCへきてほしい」のです。今の部員は、ヴォーカライズを、AKC卒業生を真に理解していません。真に理解することができません。いや、ただ知ることすらできないのです。それは、一つには在校生に卒業生を知ろうという心、気持ちがないこともありですが、また一つには卒業生を知る機会に恵まれていません。

先日、永井さん（八）、鈴木道さん（十二）、津坂絢さん（十五）がパーティーのPRにクラブを訪れました。しかし、その努力にもかかわらず、在校生は参加する意思を示しませんでした。ヴォーカライズというものにたいし、あまりにも無知であり、その存在価値をも認めていなかったのです。お互いの心に大きな隔たりがあったのです。そのような状態のときに「パーティーに出席してほしい」。在校生にとっては、あまりにも急な先輩の

訪れであり、パーティーへの勧誘であったのです。それだけの気持ちになる時間がなかったのです。在校生にとって、ヴォーカライズは卒業生の、いや、おとなの集まりだという印象を与えたでしょう。ヴォーカライズは在校生とは関係がない、卒業生は卒業生、在校生は在校生、そんな気持ちを強く持ったにちがいありません。

だから、お願いするのです。

「AKCへ来てください」。活動を見てください。もちろんお忙しいこととは思いますが、音楽室へ上がってきてください。合唱にアドバイスをしてください。ヴォーカライズは音楽部員の集まりです。今、在校生は、卒業生が使った部室、音楽室を使い、ピアノを使い、毎日暮らしています。部室へきてください。一号室へ来てください。知らない生徒ばかりかと思いますが、話しかけてください。AKCなのです。在校生は無愛想かもしれない、はじめは。しかし、ほんとうは先輩の顔が見たいのです。音楽の話がしたいのです。昔話が聞きたいのです。いっしょに歌いたいのです。世間話がし

たいのです。そういうつき合いがしたいのです。それを望んでいるのです。くどいようですが、もう一度言います。「AKCへ来てください。一号室へ来てください」…。

理解と認識が必要

浅川 俊朗（十九）

ヴォーカライズと音楽部がしっくりいくためには、お互いの認識と理解が必要と思われませんが、直接のつき合いは、時間的制約のため困難なので、これはなかなかむずかしいことです。

皆さんは、われわれ在校生がヴォーカライズに関して認識不足であるといわれるようですが、およそ一面識もない多くの部員にとって、ヴォーカライズの会誌を読んだだけでは、だいたいどんな集まりであるかということは簡単には理解しにくいものと思います。また、皆さんにしても、一昔前、音楽部員であったとはいえ、現在のクラブとは部員数（24人）もちがうであろうし、活動のしかたもちがっていますので、今のクラブを正しく把握されていない面もあるようです。こういう状態のうちにパーティーの問題が起こり、結局在校生は不参加という

ことにきまってしまったのですが、これについては、理由はいろいろありますけれど、いまから考えてみてもしかたがなかったのではないのでしょうか。ですから、パーティーに参加しなかったのは在校生が悪い、と、頭からきめつけないようにしていただきたいと思います。

また、その他のことについても、もし、在校生のやり方に間違い点があったら、一方的に在校生のやり方は間違いときめつたのか、あるいはとらざるをえなかったのか」ということをお考えのうえ、参

考意見というような気持ちでご忠告ねがえれば、私たちも快くその意見を聞くことができ、別に対立もなく、スムーズにいくのではないのでしょうか。

暖かい助言を

石川 明美（十九）

もし先輩の方々に「私たちは君たちの先輩だよ」と話しかけられたとしても、

顔を見知った方ではないかぎり、同じ巣箱で育ったというような親近感など覚えず、ただ私よりも音楽について深く豊富に知っていらっしやる方だと思えな

いのです。
たしかに今日の音楽部は、諸先輩のたゆまぬ努力と熱意のたまものなのですから、もっと親密さを感じるべきでしょうが、現在は私たち在校生の手によって音楽部は運営され、かつ、新たな歴史のページを書かれつつあるのです。昔は昔、今は今。先輩方と現在の音楽部は互いに作用し合う力はなく、無縁のもののように思われるのです。

私はまだ在籍している身ですから、離

AKCヴォーカライズと卒業生に望む

籍してからの気持ち……高校生活の半分を過したクラブへのなつかしさ、愛着を持つていたクラブへの未練はわかりませんから、こうあつさりと言いきれるのであつて、諸先輩からごらんになれば、なんと生意気な……と思われるのかもしれませんが……
もし先輩方がクラブに深い愛着を持っているのだら、どしどしおいでくださって当時のクラブの様子などお話しください。未熟な私たちに助言などして先輩方はなくてはならない人となることと思います。

10周年記念パーティー

写真 説明

いずれも左から

(前列)	杏子	宮部
鈴木 道郎	磯貝 文江	磯貝 文江
△高原 一郎	鈴木 由紀子	鈴木 由紀子
(坊や)	津坂 絢子	津坂 絢子
水野 俊彦	△森谷 町子	△森谷 町子
毛利 豊	△鬼頭 糸子	△鬼頭 糸子
斉藤 正雄	永井 充	永井 充
○森下 先生	△永井 洋司	△永井 洋司
○都築 先生		
片山 真知子	(後列)	小出 富士夫
横橋 貞夫	服部 修	服部 修
高原 敏子	鈴木 茂彦	鈴木 茂彦
太田 岸子	佐藤 隆彦	佐藤 隆彦
新沢 宏	岡崎 美彦	岡崎 美彦
△大川 睦夫	高木 眞祐	高木 眞祐
	上前 昌三	上前 昌三
(中列)	能仲 徹	能仲 徹
△板橋 祥子	野村 圭子	野村 圭子
△長江 欽子	水野 公子	水野 公子
△市川 初美	藤野 絢子	藤野 絢子
△村上 静子	加藤 久美子	加藤 久美子
△那須 紀子	伊藤 真知子	伊藤 真知子
△大林 和子	広地 千曉	広地 千曉
△大藤 千鶴子	○顧問	○顧問
加藤 幸三	△非会員	△非会員
浅井		

暖かく 和やかに 十周年パーティー開く

歌って、踊って、笑って、食べて：そこには先輩、後輩、会員、顧問、部外者、家族、なんの隔てもない集まりがあった。AKCヴォーカライズの十周年を祝うパーティーは、あくまで和やかに、そして思いやりに満ちあふれて進んでいった。「サリマライズ」を合唱するみんなの顔は、上気していた。「長いような、短いような十年だった。でも、いま、ヴォーカライズはこうした多くの人たちによってささえられているのだ」：そう心のうちにつぶやいた参加者も少なくなかったはずである。

昭和四十年十一月十四日、雨上がりの日曜日だった。名古屋・藤久ホテルの一室に集まったのは、AKCヴォーカライズの十年の歩みを記念するにふさわしい人々五十三人だ。会員はもとより、両顧問、ご家族、友人の姿もあった。テーブルいっぱい料理が並び、飲み

物が据えられた。あとはもういうまでもない。備えつけのピアノをはじめ、持ち込みの楽器まで使って、めいめい思い思いの隠し芸、自己紹介、漫談、ヤジ……。水野俊彦君がナポリターナを、十二・十四期がオペレッタ「影をなくした男」の再演を、東海女子高校音楽部が中田喜直の合唱曲を：のど自慢、芸達者ぞろいの集まりによどみはない。

想い出話も飛び出す。仲間同士がテーブルを囲んだので、自己紹介がいつの間にか他人の領分を荒らす始末、フォークダンスもし、校歌も歌い、写真もとった。閉会予定時間なんか忘れてしまったかのようだ。

このパーティーが盛大に、暖かいふんいきのうちにできたのは、永井君ご家族をはじめ多くの人たちのお心づくしによる。だが、なろうことなら、もっと多くの人に出席してもらいたかった。苦勞に苦勞を重ねてきた委員たちは、この日をどんなに喜んだことだろう。い

まさら報告記でもあるまいが、パーティーの一端でも知っていただくのも悪くない。こんどは、AKC二十周年を盛大にやりたい：その足がかりのためにも……

― ◆ ・ ◆ ・ ◆ ―

パーティー出席者（敬称略）

【お客様】▽家族Ⅱ鈴木秀代（鈴木道郎母）永井かな子（永井充母）永井洋司（同兄）永井美枝（洋司妻）大川睦夫（鈴木由美子弟）▽友人Ⅱ長江欽子（浅井幸三）柴田真弓、石塚恵子（伊藤真知子）中島哲（永井充）▽東海女子高校音楽部Ⅱ那須紀子、大林和子、村上静子、市川初美、板橋祥子

【顧問】都築健太郎、森下千秋

【卒業生】浅井幸三、毛利 豊（五）水野俊彦（六）石原佳子、寺田令子、永井 充（八）上前昌三郎（九）加藤千鶴子、鈴木 茂、鈴木道郎、高原敏子、服部 修、横橋貞夫（十二）野村圭子、藤野 絢、水野公子（十三）伊藤真知子、鬼頭香糸子、高木眞祐（十四）磯貝文江、太田岸子、加藤久美子、鈴木由紀子、津坂絢子、能仲 徹、宮部杏子、森谷町子（十五）岡崎美彦、佐藤隆彦、新沢 宏（一七）

【在校生】大竹克美、小出富士夫、立花秀夫、新実徳英、広地千曉（十八）片山真知子、斉藤正雄（十九）

愛される

ヴォーカライズの姿

藤野 絢 (十三)

あの日の楽しさが、まだ、からだ全体をすつぽり包んでいます。ほんとうに何とすばらしいパーティーだったことでしょう。夢だったなら、私はいまもその中で歌い、笑い続けているでしょうに、現実には、興奮もさめやらぬままに、紙の上に再現しようとしています。

パーティーの前日、リボンに出席予定者の名前を書きましたが、わずかな時間で仕事はすんでしまいました。そうです、少なかったのです。それでも、ワラをもつかむ気持ちで白いリボンを用意して、当日受付に立ちました。時間になって、次々と白いリボンが減っていくたびに、こみあげるうれしさをどうすることもできませんでした。

テーブルいっぱいにお料理が運ばれ、サリマライズの合唱でパーティーの幕は開かれました。だれかさんの陽気なセン抜きが、かたくなりがちな心をほぐしてくれ、元氣よくカンパイ! お部屋の中は、恩師二人、会員、会員のお友だち、おか

あさま方、永井さんのおにいさまご夫妻、東海女子高校の音楽部の方々、そして私たちを感激のうず巻き込んだ大川睦夫さん。ヴォーカライズの愛読者であることを知ってご招待したときでしたが、この日のふんいきをあんなにみごとに盛り上げて、いまだかつてない喜びを感じさせてくださったのは、この人だと思えます。中学が同じで、隣のクラスにいた私ですが、一言も話をかわしたこともありませんでしたし、彼はそれすら知らなかったようです。初めて会に出てくださったとは、とても思えず、かえってリードしてくださるほどでした。小学校がいつしよだったという野村さんとギターをきかせてくれ、私たちもギターに合わせ「雨降りお月さん」を歌いました。くり返しくり返し歌いながら、私はどうしてこんなにすてきに事が運ぶのかと、ふしぎに思ったほどです。

神様がくださったごほうびかと考えたりもいたします。どんなによく想像してみても、この感激の十分の一も及びませんでしたもの。

初めてこういう会の準備を、わずかながらお手伝いさせていただいた私は、日が近づくにつれて、成功を祈る気持ちでいっぱいでした。鈴木会長を中心に委員の方たちの言い尽くせないお仕事ぶりによつて、願いよりも大きな結果を生んだこのパーティーです。この方たちのご苦労は、思わず頭が下がるほど、大きなものでした。

が、決して忘れてならないものに、永井さんご一家の、ヴォーカライズへの深いご理解に立ったご協力があります。この会の準備はすべてといっても過言でなく、そのお家の中でなされました。部屋いっぱいにあふれている新聞紙やワラ半紙、謄写版の道具をみせていただいて、それが今回のみならず、機関紙が発行されるたびのありさまときかされて、私、委員の方のご苦労もさることながら、ご家族のことを考えてしまいました。おかあさまはいつも細々とお気を使われていらつしやいます。盛大なパーティーが無事に終わって、ひととき考えてみますと、「愛されるヴォーカライズ」の姿がまざまざと目に浮かびます。

この会は、いうまでもなく、浅井さんのたゆまぬご努力によって続いてきたものです。彼は会の父であり、そして永井さんのおかあさまはまた、ヴォーカライズのおかあさまでもいらっしゃる気がします。十周年を迎えて、ここに両親のそろったこの会が、先果てることなく、ただただ発展するのみだと暗示されているようで、うれしくたまりません。この喜びは、もっとももっとたくさんの人に持っていたきたい思いでいっぱいです。時間も延長されて、お開きになりました。そのが、もう六時前でしたかしら。小さな喫茶店で二次会をして、疲れもなく帰宅したのが九時前。その夜、私の出発日も十二月十二日と決まって、二重の喜びにひたりました。順調に行っていれば今ごろあちらでの生活なのにと、次々日を延ばすおばを恨んだりいたしました。そんな気持ちもどこかに消えてしまい、楽しいことばかり味わう、わが身のしあわせに不安を感じるほどです。

来年も何か催されるとききました。きっとすばらしい会になることでしょう。そのときはきょうのこの感激を味わった方たちが、たくさんお誘いをかけて、もっともっと大きなパーティーになるだろうと期待いたします。

スルメの味

すばらしい仲間たち

宮部 杏子（十五）

帰りそびれているうち、ヴォーカライズの原稿を書くようにとお電話をいただきました。以前の私でしたら、絶対にお引き受けしなかったと思います。お断りするのには慣れていましたし、楽しいときだけ仲間に入れていただければ、あとは何とかナルダロウ。ずいぶん身勝手な会員があつたものだと思ひになります。しよ？でもご安心ください。記念パーティーに出席し、いろいろ反省させられました。

一年生のころ、先輩の方たちが練習を見にいらつしやいますと「なんだ、先輩面をして。カレイライスかヴォーカライズか知らぬけど、おせっかいもいいところだ」「ごめんなさい、あのころは反抗期でしたので」などと腹の中で思っていました。

二年、三年といくらかヴォーカライズに對する考え方も変つてはまいりましたが、それほど大事なものは考えませんでした。でも、卒業して初めて機関紙を受けて、友だちに自慢して見せたものです。

それから、少し大きめのあの封筒が来るのが待ち遠しくてならないのです。このごろでは、母も弟も熱心な愛読者となり、「記念パーティーにおかあさまを」という記事に、母は「出席しようかしら」とはりきる始末です。

笑うと目とまゆがくつついて歯ばかり白く目立つタヌ先生。それとは対照的なお顔色の森下先生、先輩、後輩。かめばかむほど味の出くるスルメのような方たちばかり。こんなにすばらしい集まりがどこにあるでしょう。パーティーの帰り道、ひとりになったとき、なぜだかとてもさびしく感じました。この会をりっぱに育ててくださった浅井さんをはじめ多くの皆さまに感謝します。そして思います。いつまでもこの会が続きます、ますますりっぱなものになりますように、在校生とのゴチャゴチャが一日も早く解決しますように、私もできる範囲でお手伝いしなければと。こんなわけで、つまらぬ文を書きました。

楽しかった

開放的なふんいき

大川 睦夫（同窓生）

先日は十周年記念パーティーに招待していただき、ありがとうございます。ヴォーカライズとは形式的には何の関係もないのに、このこ出かけて、日曜の一日を愉快にすごさせていただいて、申しわけないような気がします。というのは、パーティー成功のかけには委員その他の人たちのたいへんな苦勞があっただろうと思うからです。

パーティーといってもいろんなのがありますが、十四日は実によいふんいきでした。会員だけでなく、その家族も出席して和やかに進められるなかで、私も異邦人であることを忘れて、ともに楽しむことができました。そこでは、特定の人たちから成る閉鎖的集団という感じはまったくなかったようです。オープン・ドア・ポリシー万歳！

十一月とはいっても寒さはもうきびしく、そろそろ冬眠にはいるころのタヌキも、この日は意外に元気に森下先生とともに出席されて、想い出話を披露されました。彼のお顔を久しぶりに拝見して、薄暗い音楽室での授業のさいに、突然どこからともなく異様な低音がわれわれの合唱にまじり込んで不協和音を響かせるので、怪音の持ち主いずこと見ると数学教師のスイスイが、幼稚園児のように無邪気に歌っていたという光景を、私はひとりで思い出して楽しい気分でした。

先輩も後輩もいっしょになって、ヴォーカライズを十年も続けてきたということとは、すばらしいことです。縦のつながりは、ときにはよくない働きをすることがあります。たとえば愛知学芸大学出身の教師の結成している〇〇会なるものは、横のつながりとしての教員組合を骨抜きにして、反動的政治教育を強めるのに大きな役割をしていることなどは、その典型でしょう。ヴォーカライズは、そんなのに比べるまでもなく、音楽を愛し楽しむ人々の気軽な集団として、横のつながりとしての同期の会と対立するものでなく、反対に相互に助け合いつつ、発展していくことを願っています。

単に回顧趣味という消極的な意義だけではなく、会員の参加の態度によつては、この種の会は職場または学校のグループでは得られないものを、現在の生活にもたらしことができると思います。

もちろん、ヴォーカライズは現にそれをめざしていることと思いますが、効果的に実現させるためには、お上品なことだけを話題にするようなサロン調では不十分ではないでしょうか。音楽は日常生活から遊離した高尚なものではなく、音楽をやる人もきく人も現実的な生活を営んでおり、いろんな困難な問題をかかえているはずですから。ここで私が言おうとしていることは、高橋昭弘君の「生活感」：「」につながるような気がします。具体的な展開なまたの機会に譲ることにします。

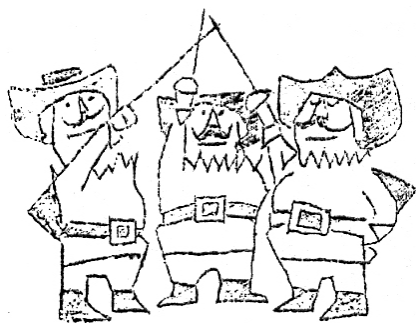
私はいま、ある職場の小さなギターサークルの指導（ただしカッコ付き）にあたりながら、今度の出席を機会に、ヴォーカライズ会員の方にお教え願うことができるようになればありがたいと思っています。ですので、よろしくお願いします。

最後に一言だけ述べさせていただきます。

日韓条約に続いて、小選挙区制問題がいよいよ具体化されようとしています。小選挙区制が法制化されるようなことが

あれば、現在すでに大きく侵害されてしまっている平和憲法は、今度は正面から葬り去られて、日本の民主主義運動は最後のトリデを失うことになりかねません。よくいわれる選挙の浄化とか二大政党による安定した政治というような文句は、ヴェールにすぎません。僧衣の下のヨロイは明白に見えています。憲法を学ぶ者の一人として、この重大な事態について会員の皆様に大きな関心をもっていただきたいのです。

ご招待いただいたお礼を述べるつもりで、つい長々とまとまらないことを書いてしまいました。鈴木、永井、その他の委員諸氏が元気に活躍され、ヴォーカライズがますます発展することを期待しています。



ヴォーカライズ

パーティー感激記

東海女子高校音楽部

十一月十四日のAKCヴォーカライズの十周年記念パーティーに、永井さんからご招待され、私たち食いしんぼう五人組はこのことやってきました。なにしろ、「食べ放題」とお聞きしましたので…。しかし、そこはしおらしい女の子、人前ではあまり食べられませんでした。でもあとになって、「あのとき食べておけばよかった」などと後悔ばかり。この次のご招待には、ぜひたくさん食べようとはりきっていますので、どうぞよろしく。

しかし、私たち五人組にとって、このようなすばらしいパーティーにお仲間入りできたということは、とてもいい勉強になりました。帰る途中も、卒業したらぜひあのようすばらしいパーティーをと話し合いました。そして、翌日はさっそく部室で「サリマライズ」と「はるかな友に」の二曲を歌いました。昨日の感激を胸にいだきつつ…。

それから一つおわびをします。私たちのうたた「忘れな草」、へたで、

さぞかしおきぎぐるしかったこととおもいます。ゴメンナサイ。あのような、すばらしいホテルのまっ赤なじゅうたんの上で、ムードをこわしてしまいそうな、へたな歌をおきかせしてしまいました。深くおわびいたします。このつきからは、もっともっと練習をして、すばらしくなっていくからおきかせいたしますので、今回のことはお許し下さい。

現在発展途上にある東海女子高校にとって、なにかもが吸収するところばかりでした。皆様に、私たちをご招待くださったことを、深く深くお礼申し上げます。

このすばらしい会が、ますます発展されることを心からお祈りします。

どうか、これからも私たち東海女子高校をご指導くださいますよう、お願いいたします。

(那須 紀子・大林 和子
村上 静子・市川 初美
板橋 祥子)

食べて、笑って

思い出話を聞きかじる

片山真知子 (十九)

先日のヴォーカライズのパーティーに参加させていただいて、ありがとうございました。

私たちなどは、想像もつかなかった豪華さとおもしろさに圧倒されて、いまだに感想などどうやって書いたらよいか、わからないくらいです。

まず、ショックだったのは会場です。

藤久ホテルという名前から、だいたいの見当はついていたつもりなのですが、なにせ、ああいうところには一度もいったことがなく、ドアに手を出そうとしたら自動ドア、スイとつられて中へはいったら、立っていた男の人がサッと一礼というタイミングで驚かされました。室温も暑からず寒からずといったぐあい、「けっこうずくめ」。

そのふんいきに慣れて、モリモリ食べられるようになったのは、プログラムの三分の一を過ぎてからでしょう。どうか、タヌキ先生の話す、先輩のエピソード、現在生徒会室になっているもとの

音楽室のこと、部室の天井裏のことなどのおもしろいお話で、顔がしまらなくなってからだったようです。それからあとは、話を聞いては笑い、笑っていないときは食べているといったぐあいでした。タヌキ先生のお顔や、思い出話をなすったときの先輩のなつかしそうな、何かほのぼのとした暖かさのあるお顔が、はっきりと印象に残っております。

残念だったのは、参加した在校生が全部で七人。その中で現役が二人、一年生が〇人だったことで、とくに一年生は、ヴォーカライズを理解するという点で、もう少し参加してもよかったのではないかと思います。

日ごろのいやな勉強のことなど忘れて、楽しい半日を過ごすことができ、ほんとはよかったと思います。

総括的な報告記は「Vocalize」88号に新沢宏君（一七）のものがありますのでそちらをごらんください。

小辞典

合同合唱

卒業生と在校生が合同出演する混声合唱で、その年の音楽部発表会の最後のステージを飾るのが通例だったが、26 28 29 30年度と回を重ねたあと、38年度の合同演奏会で実現をみたにすぎない。曲は「天地創造」「オレンジの花はかおり」「美しく青きドナウ」「兵士の合唱」など。

デサフィナード

(Desafinado…ポルトガル語で少し音のはずれたの意)

四十年春に第一号を出した音楽部機関誌。第三号で「暴掲頼衆特集」としてヴォーカライズの批判をしている。必読の要あり。

「ア・カペラ」

(a capella…イタリア語で寺院ふうの無伴奏合唱をさす)

二十八年三月に第一号を音楽部誌、二十九年八月に第二号をA K C同窓会誌として発行した。現在の「Vocalize」の前身。

「カデンツァ」

26年度から30年度

まで五年間の音楽部の歩みを各部長がしるした部史。三十二年八月に発行された。「アンコール」名古屋音楽界のニュースを盛った独特の音楽紙(月刊)として三十四年一月にヴォーカライズが発行、その後名古屋労音の「アルペジオ」となり、現在は休刊中。

AKCヴォーカライズ・十年の歩み					
年度	名称	役員	組織と選挙	行事	できごと
二十九年度	AKC同窓会	会長 加藤 清4 副会長 水野俊彦6 △桜山崇子7 会計 安田良江6 △水野令子8 書記 石田千鶴子4 編集 若林延昌5 西野磨里子5 △安藤允子8	4期生以後の卒業生と在校生全員を会員とする。会費なし。 間接選挙で、各期二人の委員を出した	6月16日発足 「AKC同窓会報」1号「アカベラ」第2号を発行したが、九月には実質的に解消同様となった。 秋の音楽部発表会で卒業生、在校生合同の混声合唱「オレンジはかおり」に出演	
三十年度	AKCヴォーカライズ	会長 加藤 清4 副会長△水野令子8 会計 浅井幸三5 委員 水野俊彦、安田良江6 桜山崇子、小川恵津子、 7△金谷京子、 △丹羽好江、△鈴木京子9	組織は前年度とほぼ同じで会費50円。 委員は各期一人とし、常時在名しな いものには代理を	8月新発足 「ヴォーカライズ」1・2号を発行 2年4月総会をしたが、出席者が少なく、役員改選ができ ないままに自然消滅した。 1月の発表会（鯨光館完成記念）に「美しく青きドナウ」を 合同合唱する	
三十一年度	同上	会長 浅井幸三5 副会長 若林延昌5 田中蓉子6 委員 西川弥子7 水野令子8	卒業生有志のみで結成 実質的には五期生以降 となる。会費100円 役員選挙は全会員の 投票による直接選挙	10月1日発足 会員21人 11月より「ヴォーカライズ」の月刊制をしいて この会の基礎を確立した。 12月23日に「クリスマスうたのつどい」を 開き、以後、例年AKC との共催で続けている。 CHORUS 欄が32年 1月（6号）から登場 した	
三十二年度	同上	会長 浅井幸三5 副会長 中尾桂二7 委員 景山幽香子5 福岡二三子7 上前佳子8 石井よし子9	組織と役員選出方法は 前年度と同じ。この年 から会費は年額200円 と正式に決めた	4月（9号）からキャノンシリーズ（プロフィールの前身）始まる。 6月から、招待席Cを開始。 8月15日「旭丘高校音楽部史・カデンツァ（昭和26～30年）発行 12月22日 クリスマスのつどい 3月6日はじめてのPR 版発行（13号）	
三十三年度	同上	会長 浅井幸三5 副会長 水野令子8 委員 景山幽香子5 中尾桂二7 森本 進10. △渡辺義彦11. △横橋貞夫12. △増田 礼13.	会の運営が軌道に乗った ので在校生からも会員を 募り、35人にふえた。 委員は会員数に応じて ブロック制となる	5月労音サークル発足 6月28日東京地区のつどい（新宿・聚楽）5人 8月（24号）プロフィール シックスシリーズ始まる 12月21日クリスマスマスのつどい（旭丘）19人 1月音楽誌「アンコール」の創刊 3月8日大阪地区のつどい（梅田・桃源）5人 6月15日つどい（旭丘） 3月27日つどい（茂寿司）9人	
三十四年度	同上	会長 浅井幸三5 副会長 水野俊彦6 森本 進10. 委員 村田陽子7 大橋佑子16. △横橋貞夫12. △藤野 絢13.	すべて前年度どおり この年から東京、大阪両 支部を設け、地区委員 を選出するようにした。 会員は41人	5月24日会員第一号として西川弥子さん結婚 12月8日水野俊彦君リ サイタル、記念パーティー（プランタン）34人 12月15日フランス歌曲 の夕に桜山崇子さんデビュー 12月20日クリスマスマスのつどい代替コンパ（旭丘） 1月7日新春懇親会（鳴門寿司）9人 3月22日つどい（浅井）6人	

年度	名称	役員	組織と選挙	行事とできごと
三十五年度	AKCヴォーカライズ	会長 浅井幸三 5 副会長 水野俊彦 6 森本 進 10 委員 村田陽子 7 金森敏子 12 △川村朋子 13 △矢野公子 14	この年から委員会推薦で編集委員を置くことにし、その1号に伊藤真知子さんが委嘱された	6月12日東山植物園ピクニック 18人 11月6日東京地区のつどい(日本橋・ロビー) 8人 12月25日クリスマス(旭丘) 24人 1初15日「ヴォーカライズ」50号を迎える 16ページ 2月(51号)みんなの歌スタート
三十六年度	同上	会長 浅井幸三 5 副会長 森本 進 10 鈴木道郎 12 委員 水野俊彦 6 水野令子 8 神藤敏子 12 高橋昭弘 13 △伊藤真知子 14 △加藤久美子 15	会費年額を卒業生300円と改定。 「ヴォーカライズ」編集分担制に踏み切る	4月15日つどい(旭丘) 18人 5月14日東京地区のつどい(玉川・せせらぎ亭) 6人 4月20日合唱団発足 6月(55号)インタビュー開始 6月18日宇賀溪ハイキング 10人 8月12-15日白樺湖キャンプ 7人 12月 Xmass 中止 3月 24-25日浜名湖 6人
三十七年度	同上	会長 森本 進 10 副会長 浅井幸三 5 鈴木道郎 12 委員 水野俊彦 6 永井 充 8 神藤敏子 12 高橋昭弘 13 伊藤真知子 14 △内藤 毅 15		4月29日都築・森下先生歓送迎会(プランタン) 25人 8月26日十年後の会 5 十周年会合 8人 10月21日宮路山ハイキング 3人 12月23日クリスマスのつどい(旭丘) 18人 1月20日大阪つどい 3 2月17日東京つどい 7 3月10日旭だあす会 12 発足 ヴォーカライズ 65号欠
三十八年度	同上	会長 森本 進 10 副会長 浅井幸三 5 鈴木道郎 12 委員 毛利 豊 5、永井 充 8、高原敏子 12、林 茂希 13、矢野公子 14、鈴木由紀子 15、△笠間茂樹 16		4月6・7日室生寺旅行 7人 4月14日どうしよう会 13発足 5月16日水野俊彦リサイタル 6月(73号)より39年1月(74号)まで機能ストップ 5月(72号) 24pp 最高 2月2日AKCと合同演奏会(東区役所ホール)ヴォーカライズ 75号欠号
三十九年度	同上	会長 安田軍二 13 副会長 浅井幸三 5 鈴木道郎 12 委員 永井 充 8 鈴木 茂 12 川村朋子 13 伊藤真知子 14	投票方法がこの年だけ少し変わった。 会員 100人に達する	ヴォーカライズ隔月刊となる 12月20日クリスマスのつどい(旭丘) 61人の新記録 クリスマスのつどいでハッタリの夢のプログラムを発表、信用して集まった会員をびっくりさせる。
四十年年度	同上	会長 鈴木道郎 12 副会長 安田軍二 13 永井 充 8 委員 水野俊彦 6 森本 進 10、横橋貞雄 12、林 茂希 13、伊藤真知子 14、佐藤隆彦 17、△浅川俊朗 19、石川 明美 19		6月16日水野俊彦・大江絢子リサイタル 8月9日夏のつどい(野間) 9人 11月14日十周年記念パーティー(藤久ホテル) 53人 このあとパーティー疲れでお休み続き パーティー問題をきつかけに在校生側といざいざ起きる

AKCヴォーカライズ・十年の歩み

AKCヴォーカライズ・会員便覧 = 1 =

期	氏名	(旧姓)	プロフィール 31	会員・役員 (各年度) 40
5	浅井 幸三		50	長長長長長長副休副・
	加藤幽香子	(景山)	40	・委委・
	近藤磨里子	(西野)	81	未・
	毛利 豊		49	・
	若林 延昌		09	副休休休・委・
6	足立 孝子		44	・委委・
	伊藤伊都子	(世古)	85	・休休休・
	大津賀まき子	(原)	40	・
	鈴木 寛		34	・休休休休・
	藤井 容子	(増田)	33	・
	松沢 暢夫		38	・
	水野 俊彦		23	・
	安田 良江		52	・休休休・
7	安藤 陽子	(村田)	39	・
	鈴木 和子	(佐々)	53	・
	中尾 桂二		29	・副委委委・委委・委
	船木 弥子	(西川)		委・
	溝上 崇子	(桜山)	41	・
	横山二三子	(福岡)	45	・委・
	渡辺恵津子	(小川)	48	未・
8	寺田 令子	(水野)	14	委・副・
	森 佳子	(上前)	11	・委・
9	石井よし子		15	・委・休・
	上前昌三郎		32	・
10	清水 祐子	(大橋)	50	未・
	鈴木由美子	(大川)		未・
	高田 靖子	(園部)	59	未・
	長瀬宣子	(千本木)	28	未・
	森 泉		60	未・
	森本 進		34	未・委副副副長・委
11	渡辺 義彦		27	未委・
12	石黒 鋒子		56	未・
	織田 治	(広瀬)	79	未・
	加藤千鶴子		64	未・
	小出 幸子			未・
	鈴木 茂		30	未・
	鈴木 道郎		26	未・
				副副副副長
12	高橋 洋子		49	・休・
	高原 敏子	(神藤)	25	・休委委委委・
	伊達美紗子	(泉谷)		未・
	長谷川厚子	(加藤)	57	未・
	服部 修		70	未・
	安井 邦夫		24	・
	横橋 貞雄		44	委委・休・委委委
13	上田 勤		77	休・
	岡島 孝		54	未・
	川村 朋子		40	・
	近藤 譲子			未・
	志水 照代		45	・
	隅田 圭子	(野村)	55	・
	高橋 昭弘		54	未・委委・
	林 重希		66	未・
	藤野 絢		36	未・委・
	増田 礼		30	未委・
	水野 公子		26	未・
	安田 軍二		37	未・
14	朝日 裕晶		58	未・
	池谷 芳子		66	未・
	伊藤真知子		53	未・
	具島美保子	(谷)	45	未・
	佐藤 征夫		51	未・
	高木 眞祐			未・
	高阪 公子	(矢野)	52	未委・
	平山 葉子		48	未・
	二井真智子		47	未・
	山崎満寿枝		46	未・
15	足立 靖子			未・
	磯貝 文江		58	未・
	大里 斉			未・
	太田 岸子		64	未・
	加藤久美子		51	未・委・
	白木 倭子		56	未・
	鈴木由紀子		74	未・委・
	津坂 絢子		68	未・

A K C ヴォーカライズ・会員便覧

期	氏名	(旧姓)	プロフィール 36	会員・役員 (各年度) 40
15.	内森 毅		55	・委・・・
	能仲 徹			未・・・
	宮部 杏子		78	・・・・・・
	三輪 貞寛			未・・・
16.	梅田 昭彦			未・・・
	渡瀬 陽子		63	未・・・委
17.	岡崎 美彦			未・・・
	国枝 マリ			未・・・
	小池 扶甫		85	未・・・
	佐藤 隆彦		91	未委
	下条 豊		93	未・・・
	末永 裕之			未・・・
	鈴木ひろみ			未・・・
	富田 香代		84	未・・・
	中野 和明			未・・・
	新沢 宏		90	未・・・
	長谷川義祐			未・・・
	三好 和憲			未・・・
18.	池村久美子			未入
	今井 素子			未入
	岩崎 優子		80	未休再
	宇野 優			未入
	浦部くみ子			未入
	大竹 克美			未入
	小出富士夫		80	未・・・
	酒井 君枝			未入
	立花 秀夫			未入
	津坂 幸子		80	未・・・
	新実 徳英			未入
	花村貴美子			未入
	広地 千暁			未入
	牧野 治生			未入
19.	浅川 俊朗		81	未委
	石川 明美		81	未委

期	氏名	(旧姓)	プロフィール 31	会員・役員 (各年度) 40
主要退会者				
5	高橋 啓子 (棚村)			・・・・未
7	佐々木比呂子 (拝口)			未・・・・未
8	石原 佳子 (三輪)	15		・・未
9	平 栄子 (竹内)			未・・・・未
11.	斎藤紀美子 (東堂)			未・・・未
6	水野 蓉子 (田中)	10		委未
8	永井 充	41		・・・・・・委委委副
11.	高柳 治江 (佐藤)	78		未・・・・未
9	山田 栄子 (金谷)	34		未・・・委・・・・・・
その他在籍したことのある人たち いずれも在籍 1～2 年 連絡がたえたため、姓は在籍当時による				
5	中島 重子			
6	浅野 みち			
	加藤 昌子			
	山口ひで子			
7	吹口 桂子			
8	松口 久子			
10.	勝田三保子			
12.	宇佐見和光			
13.	神田 光恵			
	桜井 茂徳			
16.	笠間 茂樹		69	
	小池 裕子		72	

= びんらん =

◇ この表は 41 年度当初の会員名簿によった。
末尾に過去の会員名簿も加えたので、ヴォーカライズに関係した A K C 出身者の一覧ともなっている。

◇ 「プロフィール」は掲載号数を示し、下線は「在校生諸君」として扱われたことを現わす。

◇ 会員欄はつぎの記号によった。
・：会員 未：未加入、退会 休：休会
長：会長 副：副会長 委：委員
委：東京・大阪支部委員 入：41 年度入会

デジタル注：記号は変換した。支部委員は、記号が読めなかったため、委員と区別しなかった。

Invention

○：この十周年記念号が、あまりにも複雑な内容を持つているので驚かれることでしょう。一つは、パーティー前に寄せ集めたお祝いのご挨拶や座談会、いま一つはパーティーを終えてからの感想、それに加えて会員名簿は四十一年度当初現在となっております。この雑文を書いているのが四十二年二月ときているのですから、われながらあきれるばかりです。

○：少し弁解をさせてもらえば、本職以外のことをするフアイトがなくなったせいといえます。瀬戸支局から中日スポーツ整理部へクラ替えしても、とにかくよいいなことでペンを持つのが大きいらになり、手紙すら書かないこのごろなのです。おまけに、相棒の伊藤真知子さんも教職に追われて、編集の仕事どころではなくなっていました。四十年夏に構想ができたこの号が遅れてしまったのもそのためです。

○：この一年半の間に、ヴォーカライズもすっかり変りました。パーティーの生みの親、永井充君はやめてしまい、いまや若手の時代です。パーティーが終わったとき、彼は私にこう言いました。「このパーティーは浅井さんを喜ばせるためにやったようなものだ。うれしかったで

しょう」と。その永井君がヴォーカライズのために、どんなにか自分の時間、金、家庭を犠牲にしたか、私にはよくわかります。申しわけのないことです。ヴォーカライズに熱心であり、真に愛情を持つている人ほど、こうしてツブされていくのです。こんどはだれの番かも、私には予測できません。それほどに、ヴォーカライズの仕事はきびしく、つらいのだということ、ぜひ皆さんに理解していただきたいのです。第二の永井君を生まないためにもです。

○：とにかく、会員が百八人にもなりました。十七・十八期が現在の中核です。会が生まれた当時の一ケタの期の連中の影が薄くなるのは当たりまえでしょう。いけないこととはわかっていても、あまり親近感がわかぬのも無理からぬ話です。そこで、冗談に「第二組合」を結成しようか、といったら、それじゃ仲間に入れてくれと申し出る人もいました。笑えぬ現象とは思いませんか。

○：最近、会員の動向がよくわからない、という声が出ています。ニュース網がせばめられたのが原因でしょう。そこで提案があります。各期ごとに代表者を決めて、そこへどんなニュースでも集中し、縦のつながりであるヴォーカライズに持ち込む体制をつくってください。でない

と、せっかくの会も有名無実となり、疎遠になってしまいます。むずかしいことではないと思うのです。「十年後の会」「旭だあす会」「どうしよう会」などの同期のつながりを利用すればいいのです。

○：ヴォーカライズの委員会では、きたるべきAKC（音楽部）創立二十周年に備えて、いろいろプランを練っているようです。近く会紙上にもそうした企画ものが登場するでしょう。資料や思い出話の提供をお願いしておきます。

○：実は、この記念号で「Vocalize」のハイライトをしようという案もありました。しかし、それは百号記念でやりたいと思い、あえてはずしました。いろいろやりたいことはあるのに、仕事にそれに追いついてくれぬのも皮肉です。

○：私自身も「老兵は消え去る時期」と考えているこのごろです。「なぜ結婚しないか」と聞かれるのもいやだし、若手に全面的に譲っても心配ないからでもあります。ただ、スッパリと縁を切れるかどうかは、自信がないので弱っています。

（あさい）